



CellSource

2023年10月期 決算説明資料

セルソース株式会社（東証プライム 4880）

2023年12月15日

- ① トピックス
- ② 2023年10月期 通期業績
- ③ 各種KPI
- ④ 加工受託サービスに関する現状分析と今後の方針
- ⑤ 事業ハイライト
- ⑥ 2024年10月期 通期業績予想

トピックス

2023年10月期

- **東京証券取引所プライム市場への上場市場区分変更**
(2023年10月6日)
- **初配当の実施と配当方針の変更**
 - ・ 2023年10月期の期末配当は1株あたり20円(記念配当15円・普通配当5円)
 - ・ 配当性向10%を基準とした継続的・安定的な配当を基本方針とする

2024年10月期

- **新経営体制への移行**
(2024年1月25日開催第8回定時株主総会付議予定)
- **中期経営計画を策定・開示予定**

既存事業の爆発的な成長と新規事業創出の両輪で新たな価値創造フェーズに

代表取締役社長 CEO
最高経営責任者 候補

澤田 貴司

営業推進

加工受託サービス

PFC-FD™

脂肪由来幹細胞

FatBank

滑膜由来幹細胞

動物医療

コンサルティングサービス

医療機器販売

化粧品販売その他

経営全般

代表取締役 CXO
最高変革責任者 候補

裙本 理人

新規事業

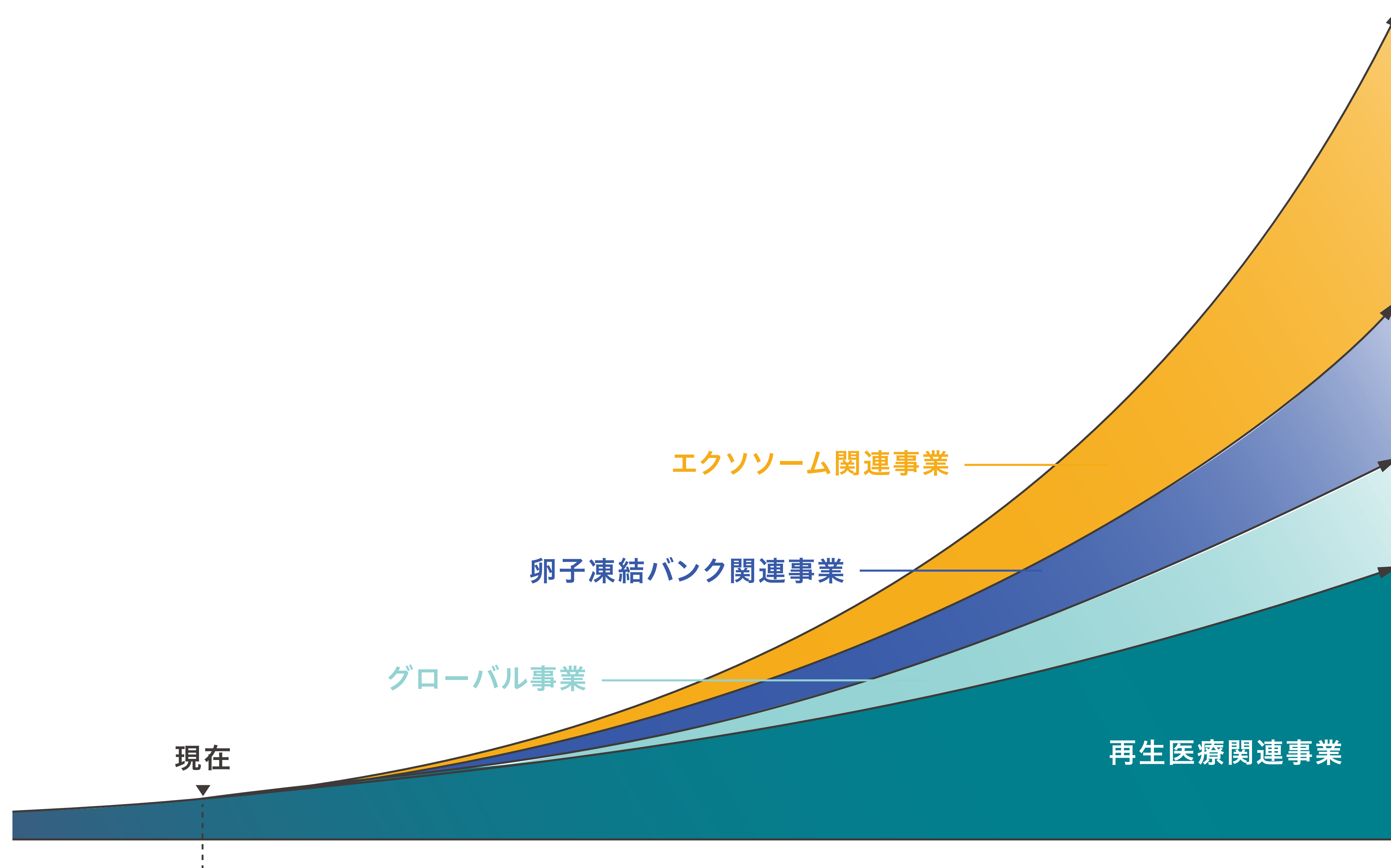
エクソソーム創薬

卵子凍結
保管受託サービス

その他新規事業

海外展開

※CXO:chief transformation officer





代表取締役社長 CEO
最高経営責任者 候補

澤田 貴司

- 1981年 上智大学理工学部 卒業
- 1981年 伊藤忠商事株式会社 入社
- 1998年 株式会社ファーストリテイリング 取締役副社長
- 2005年 株式会社リヴァンプ 設立 代表取締役社長
- 2016年 株式会社ファミリーマート 代表取締役社長
- 2021年 株式会社ファミリーマート 代表取締役副会長
- 2022年 セルソース株式会社 社外取締役(現任)
- 2022年 株式会社ロッテベンチャーズ・ジャパン 代表取締役(現任)

1957年生まれ、石川県出身。1981年伊藤忠商事株式会社へ入社、化学品原料のトレードや米國小売分野の企業買収等に携わる。1997年株式会社ファーストリテイリングに入社、翌年、取締役副社長就任。同社のフリースの爆発的なヒットにつながる事業戦略立案等に従事。2005年に企業支援会社である株式会社リヴァンプを設立。株式会社ロッテリアを始め様々な企業と事業に取り組む。2016年9月株式会社ファミリーマートの社長に就任。経営統合したサークルKサンクスのファミリーマートへのブランド転換を指揮し、2年3か月で約5,000店もの転換を完遂。2021年株式会社ファミリーマート副会長に就任。いつの時代も現場とのコミュニケーションを重視し、多岐に渡る分野で改革に取り組んでいる。

2023年10月期 通期業績

売上高

45.1億円
(前期比+5.5%)

営業利益

12.2億円
(前期比▲22.2%)

当期純利益

9.2億円
(前期比▲9.3%)

売上高営業利益率

27.1%
(前期比▲9.7pt)

加工受託件数

26,633件
(前期比+15.0%)

期末提携医療機関数

1,749院
(前期比+371院)

[百万円]	2022年10月期 4Q	2023年10月期 4Q	前期比
売上高	1,400	1,104	▲21.2%
売上総利益	1,026	753	▲26.6%
売上総利益率	73.3%	68.2%	▲5.1pt
営業利益	632	178	▲71.8%
営業利益率	45.1%	16.1%	▲29.0pt
経常利益	636	154	▲75.7%
当期純利益	428	248	▲42.2%

血液由来加工受託件数(件)	6,527	5,618	▲13.9%
脂肪由来幹細胞加工受託件数(件)	544	431	▲20.8%
期末提携医療機関数(院)	1,378	1,749	+26.9%

2022年10月期 通期	2023年10月期 通期	前期比	通期業績予想	達成率
4,273	4,510	+5.5%	4,806	93.8%
3,064	3,185	+3.9%	-	-
71.7%	70.6%	▲1.1pt	-	-
1,571	1,221	▲22.2%	1,411	86.5%
36.8%	27.1%	▲9.7pt	-	-
1,583	1,194	▲24.6%	1,386	86.1%
1,017	923	▲9.3%	981	94.1%

21,508	24,550	+14.1%
1,654	2,083	+25.9%
1,378	1,749	+26.9%

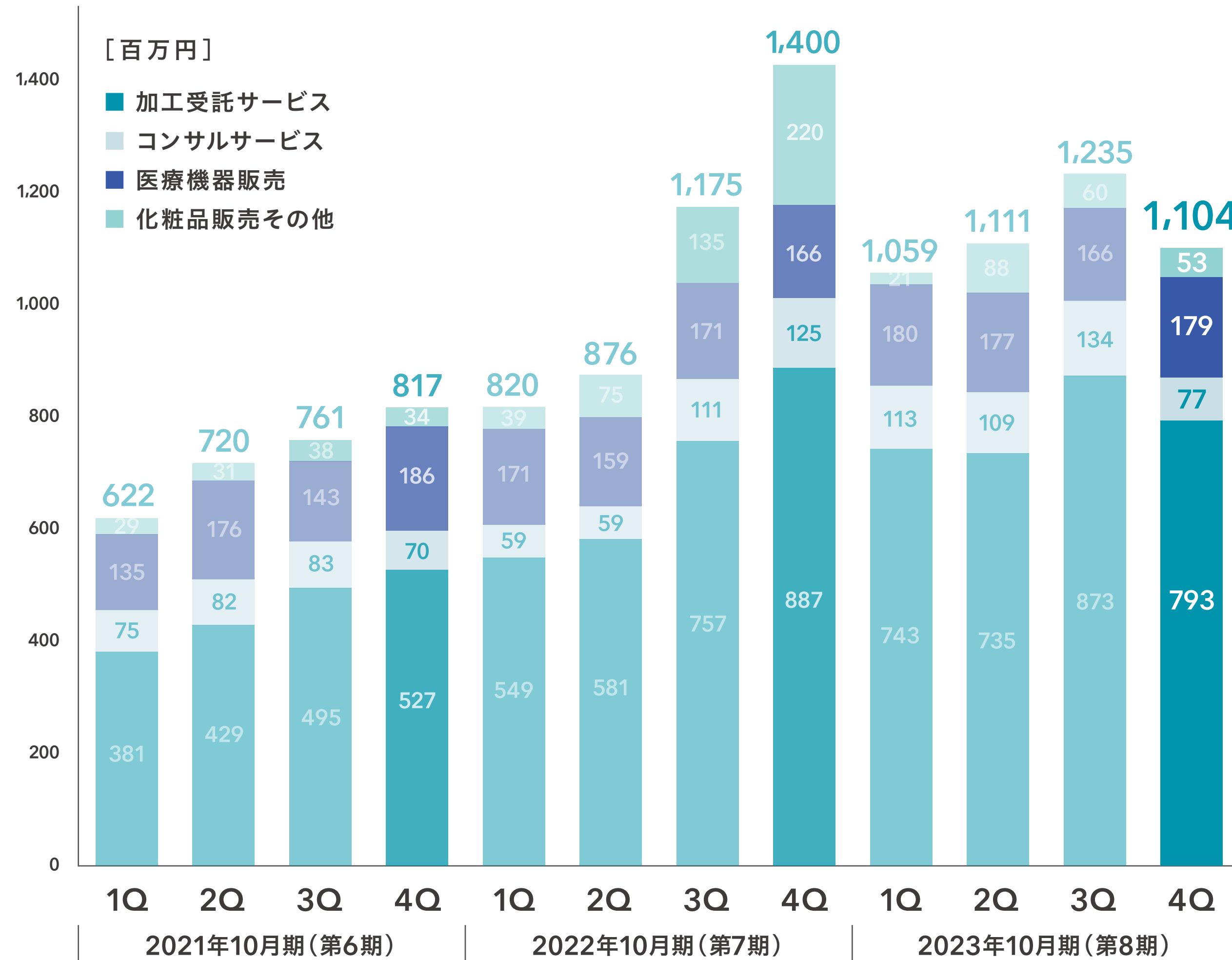
2023年10月期 通期業績

- 主力事業である加工受託サービスの売上高は着実に増加し、前期比+13%。一方で、前期に急伸したBtoBモデルによる化粧品販売は反動減となり、全体の売上高は+5%で着地
- 自費診療特化型医療機関を対象とする加工受託サービス売上高が、9月19日の業績予想修正公表時点における想定よりも落ち込んだ結果、売上高・利益ともに計画比未達で着地
- 企業価値最大化に向けて、人員拡充、オフィス移転、新製造拠点の取得等、戦略的にコストを投下。また2023年10月のプライム市場への上場に伴う関連費用を営業外損失として計上し、当期純利益は前期比▲9%で着地

事業ハイライト

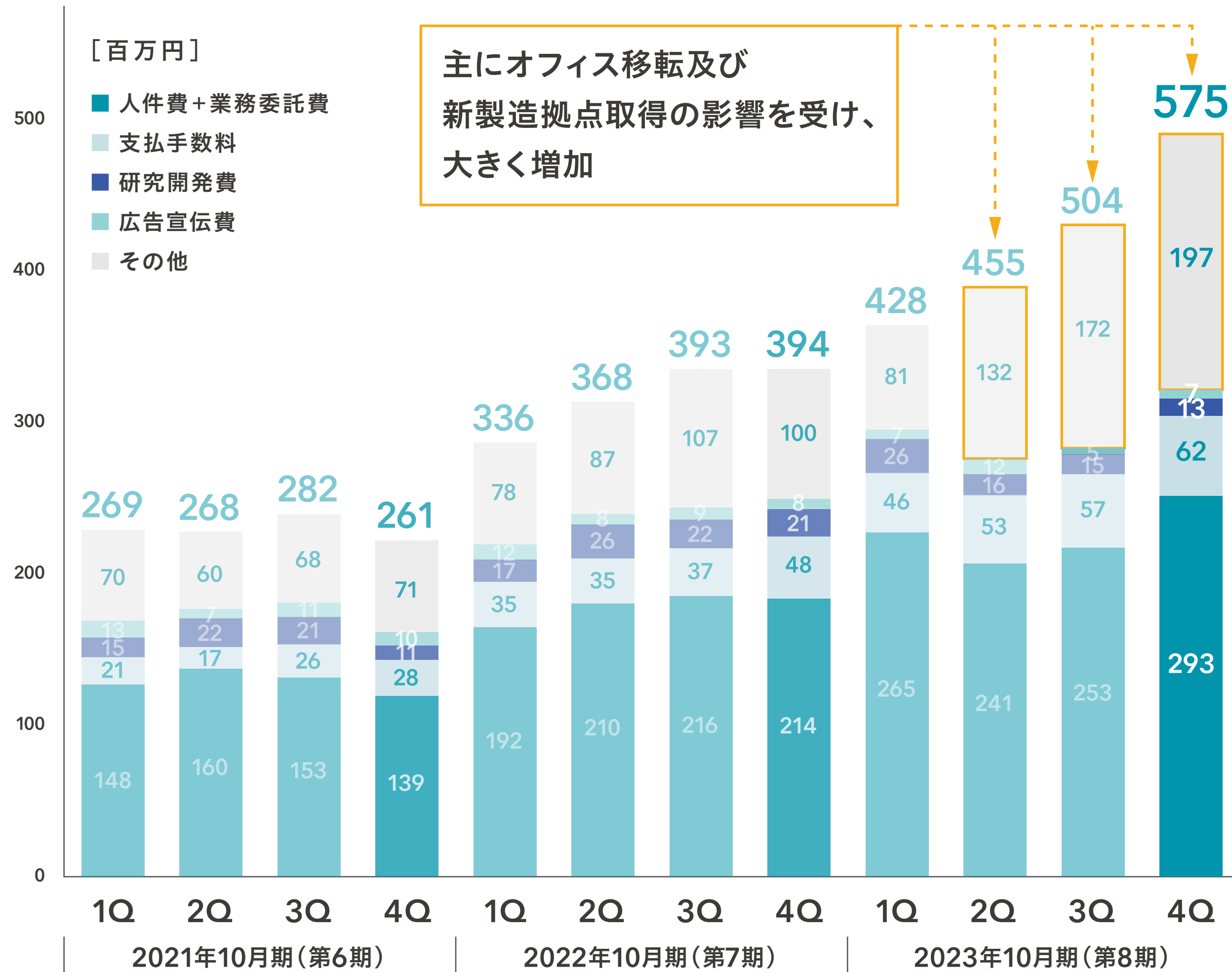
- 製造キャパシティ拡大及び生産効率向上を目的とし、新製造拠点「ZERO LAB」を取得
- 滑膜幹細胞受託事業は2023年サービス開始以降、総合病院を中心に提携医療機関を開拓。東京医科歯科大学で初の臨床応用開始
- 加工受託サービスで培った産科婦人科の医療機関ネットワーク、細胞保管設備・技術を活かし、卵子凍結保管受託サービスを開始
- 2022年6月のアニコムホールディングスとの業務提携以降、動物領域での臨床研究を経て12月に初受注
- 日本初のエクソソーム医薬品開発に向け、科研製薬とフィージビリティ・スタディを実施

化粧品販売の減収の影響を受けつつも、加工受託サービスの成長により通期売上高は増収で着地
加工受託サービスの売上動向については、「p.25 加工受託サービスに関する現状分析と今後の方針」以降を参照



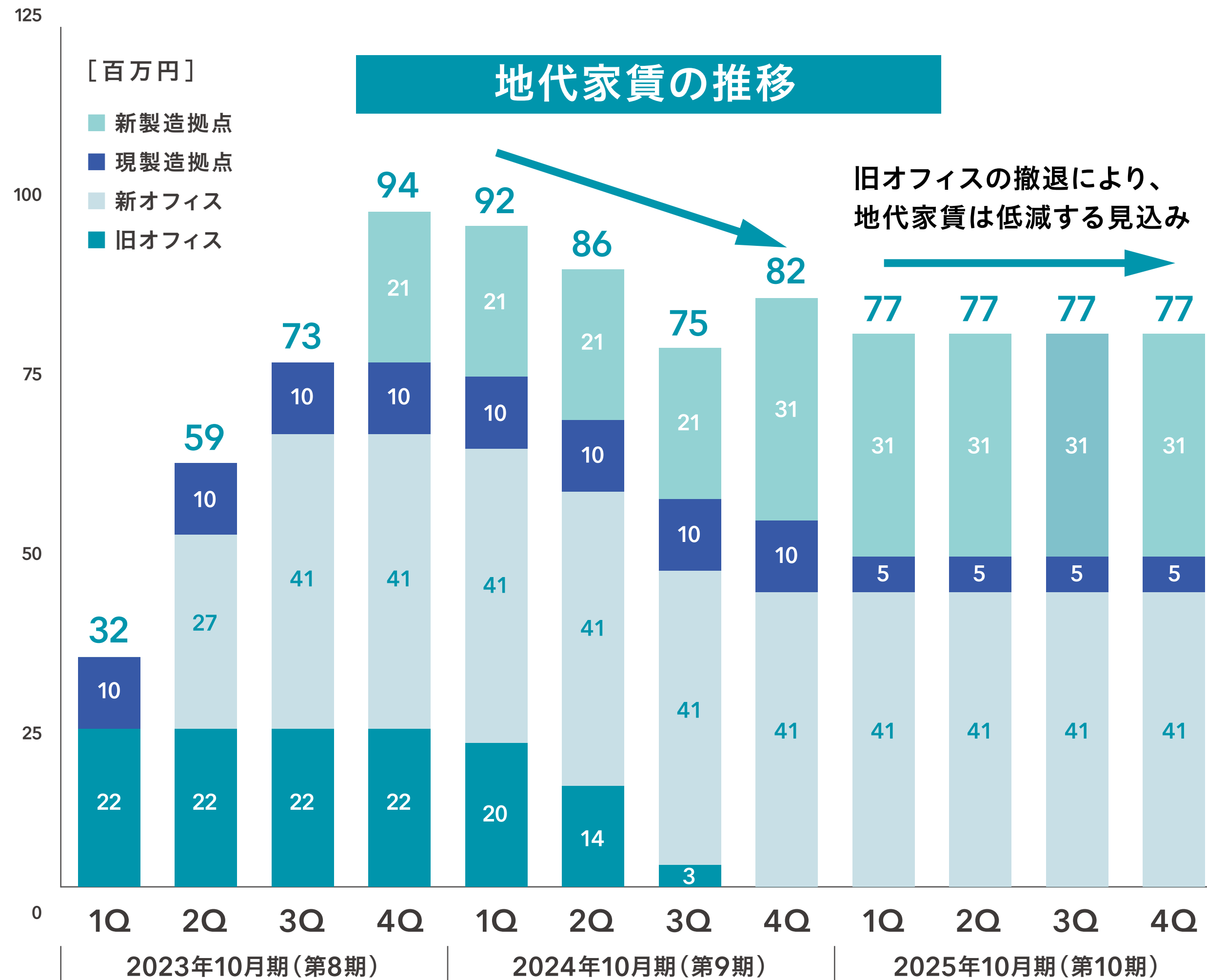
	前期累計	当期累計	前期比
合計	4,273 百万円	4,510 百万円	+5.5%
加工受託サービス	2,776 百万円	3,146 百万円	+13.3%
コンサルティングサービス	356 百万円	435 百万円	+22.1%
医療機器販売	670 百万円	704 百万円	+5.2%
化粧品販売その他	471 百万円	224 百万円	▲52.4%

人財獲得、オフィス移転、新製造拠点の取得を主要因として、販売管理費は前期比で増加



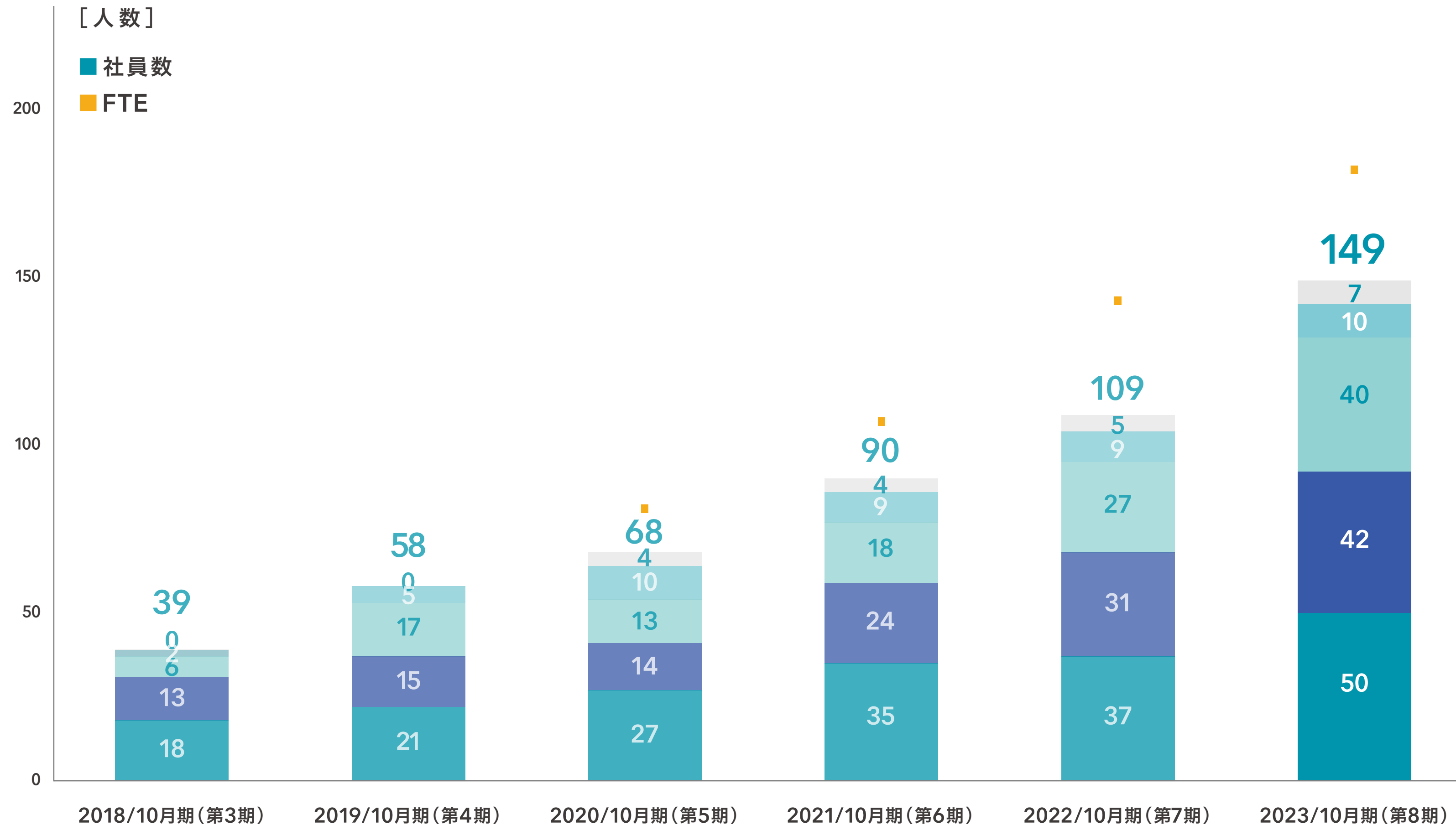
	前期累計	当期累計	前期比
合計	1,493 百万円	1,963 百万円	+31.5%
人件費+業務委託費	834 百万円	1,053 百万円	+26.3%
支払手数料	157 百万円	220 百万円	+40.1%
研究開発費	87 百万円	72 百万円	▲17.3%
広告宣伝費	39 百万円	32 百万円	▲16.8%
その他	374 百万円	583 百万円	+55.9%

新旧オフィス賃料の一過性の重複及び新製造拠点の取得により、第8期の地代家賃は大きく増加
ただし、第9期中の旧オフィス撤退に伴い、第10期以降は賃料の重複は解消される見込み



- 第8期2Qにオフィス移転を実施。旧オフィスの賃料継続発生により、賃料の重複が発生
- 第8期4Qに新製造拠点(ZERO LAB)を取得。同拠点における賃料が発生
- 第9期中に旧オフィスからの撤退が完了予定。第10期以降は賃料の重複は解消される見込み

引き続き、成長に向けた人的資本を蓄積



※ FTE (フルタイム当量) = 非正規雇用含む社員の総労働時間 ÷ (勤務日数 × 8時間) ※ 社員数: 受け入れ出向者含まず

デザイン

企業価値の向上をクリエイティブの力で支援

事業開発/R&D

非連続的成長を実現する
新規事業開発・推進

コーポレート

人的資本と組織のマネジメント

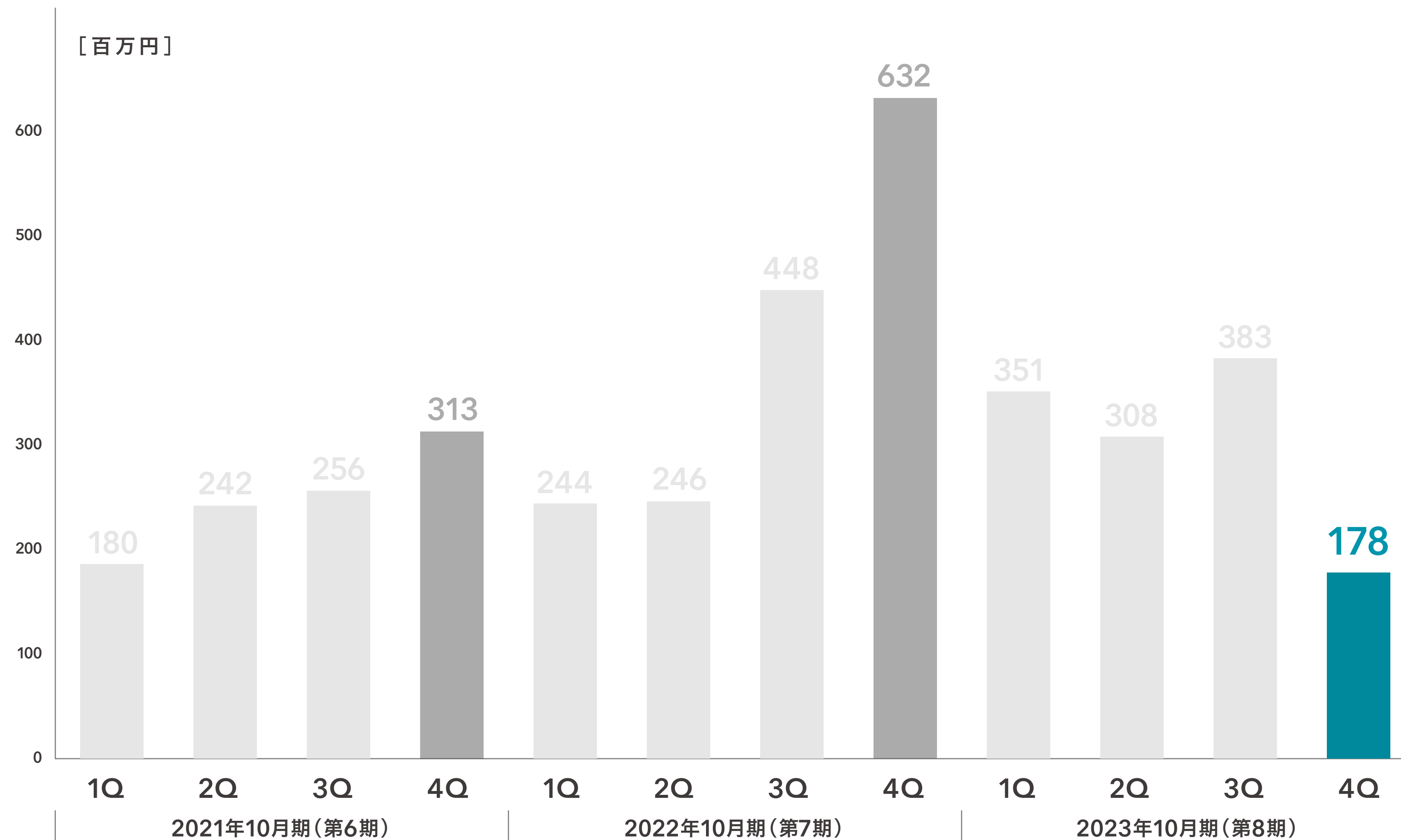
CPC (製造)

第一創業期事業の成長を支える基盤

営業

第一創業期事業の更なる成長を実現

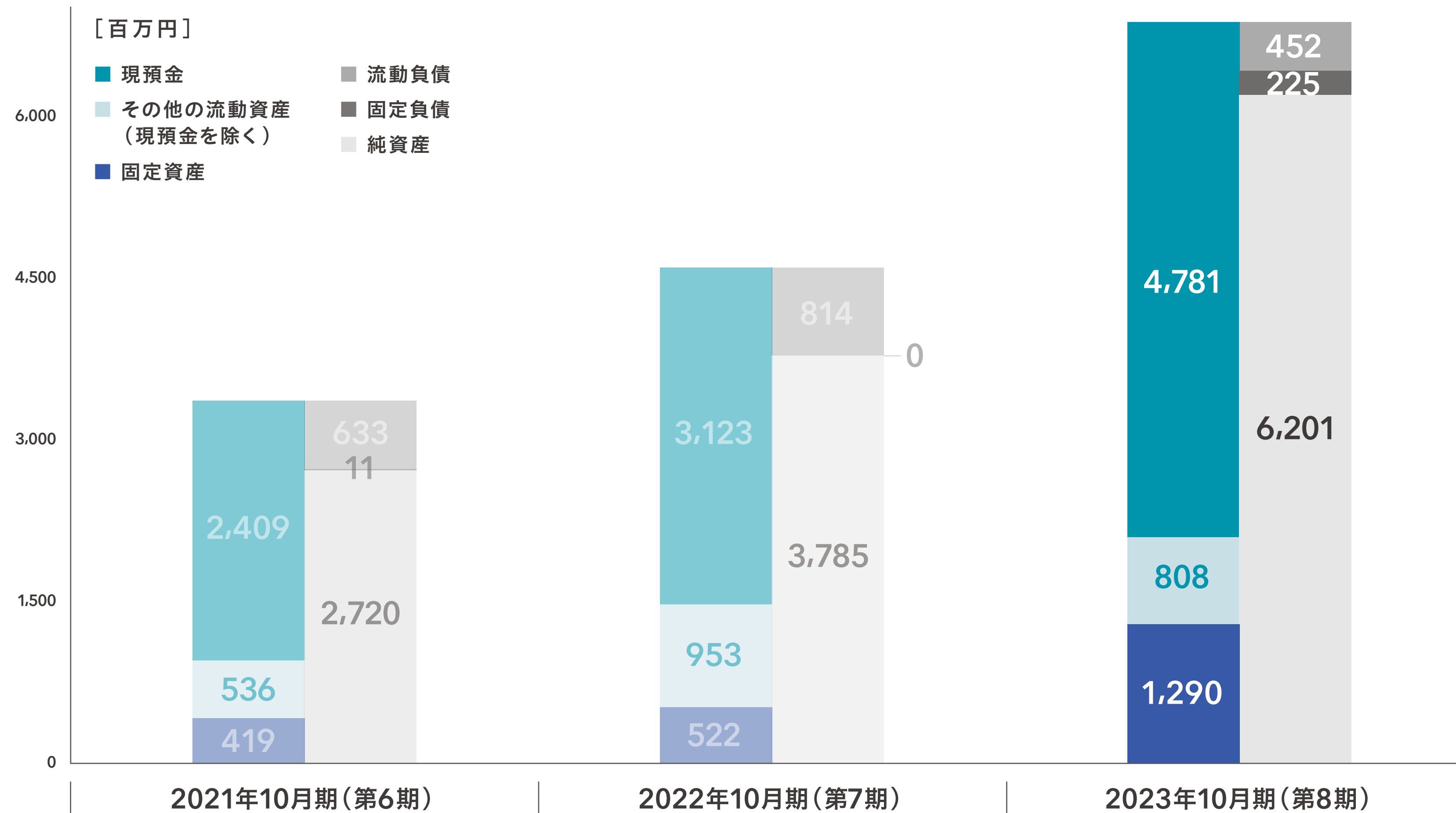
成長に向けた販売管理費の増加に伴い、第4四半期の営業利益は前期比で減少



当期累計 **1,221** 百万円
 (前期比 ▲22.2%)
 (営業利益率 27.1%)

前期累計 **1,571** 百万円

引き続き強固な財務基盤を堅持



- 2023年10月のプライム市場上場に伴う公募増資により、自己資本及び現預金が増加
- 新オフィスへの移転やZERO LABの取得により、固定資産が増加

各種KPI

期末提携
医療機関数

1,749院
(前期比+371院)

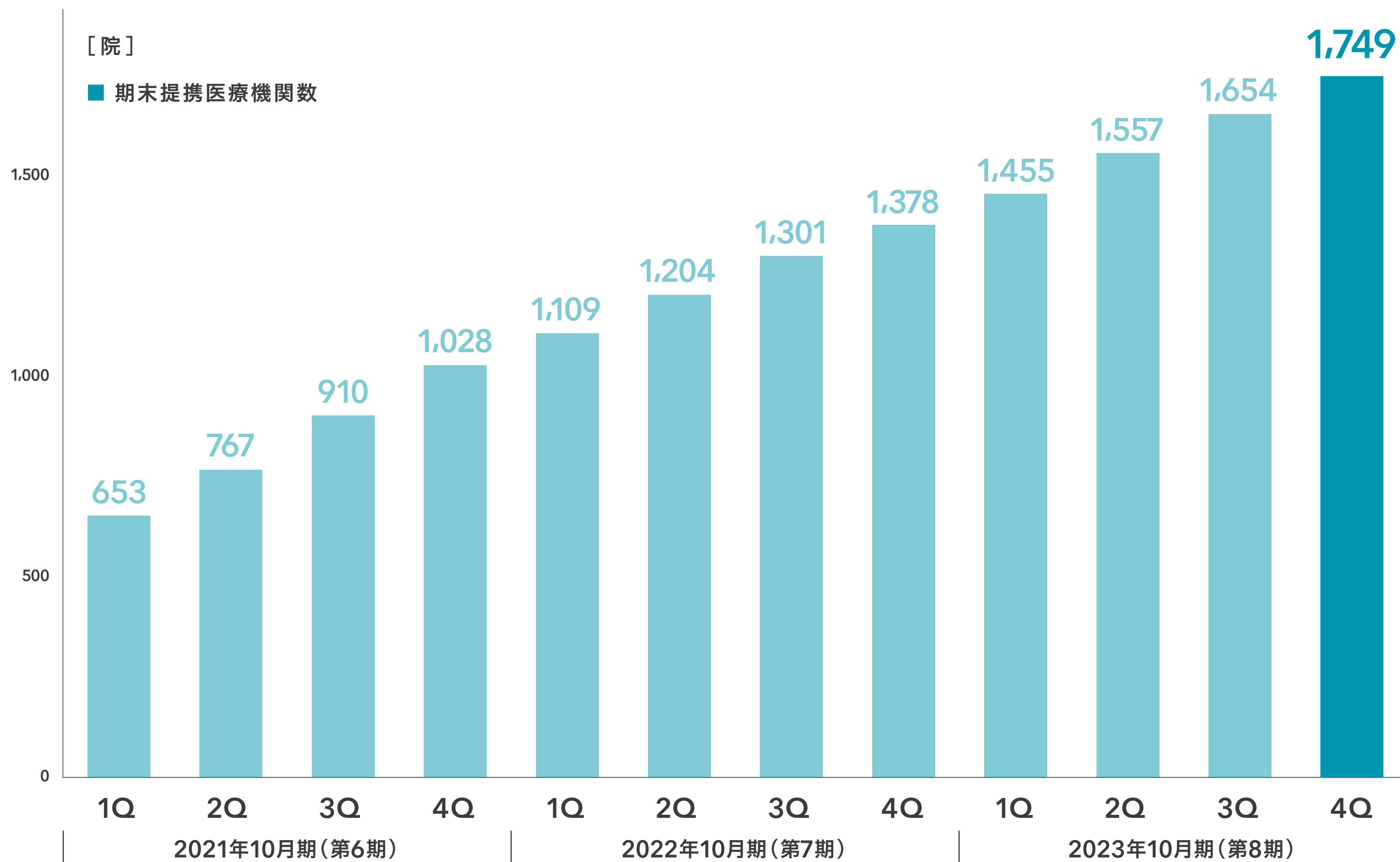
血液由来
加工受託件数

24,550件
(前期比+14.1%)

脂肪由来幹細胞
加工受託件数

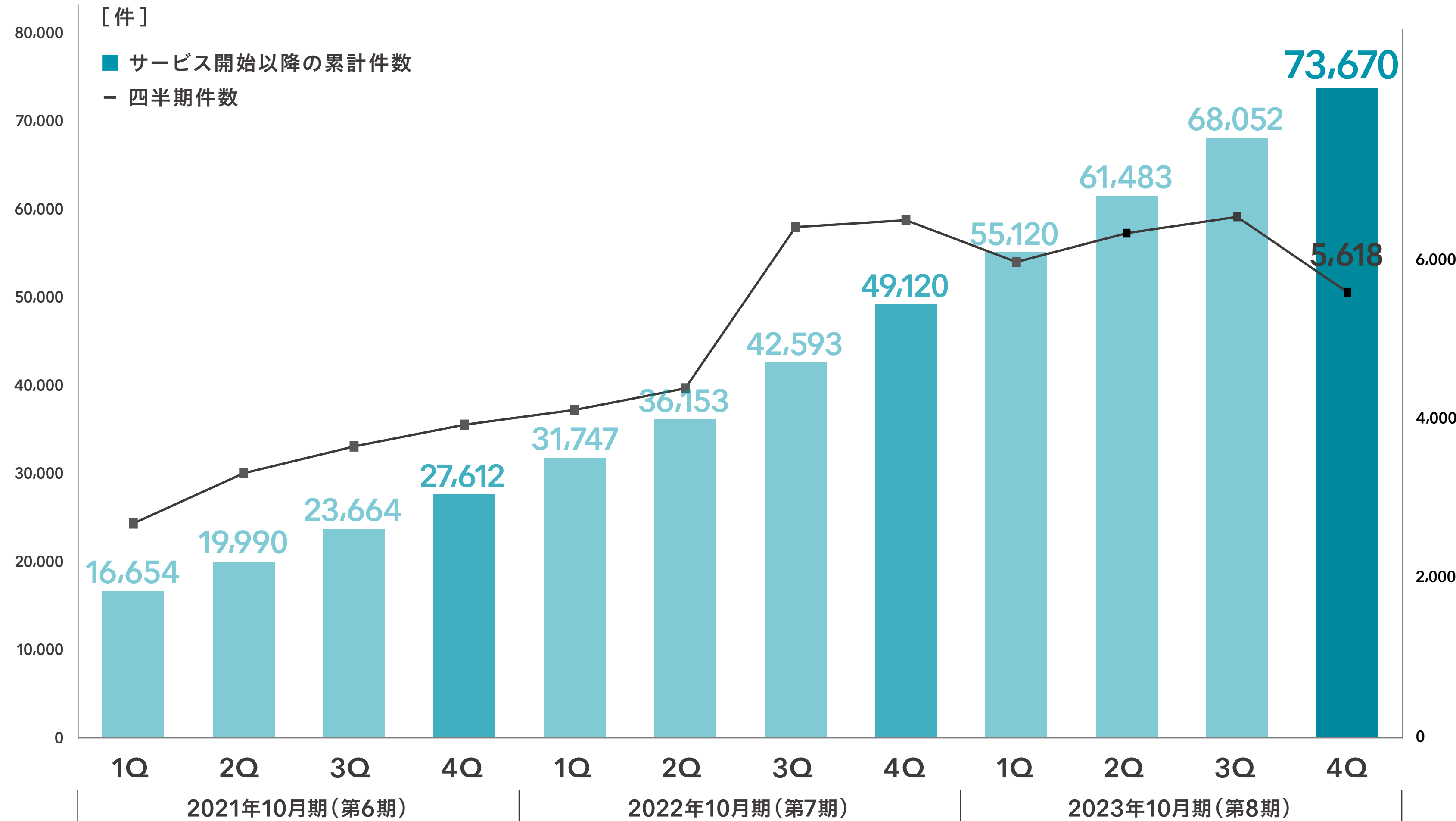
2,083件
(前期比+25.9%)

順調に医療機関ネットワークを拡大



当四半期末 **1,749** 院
(前期比 +371 院)

自費診療特化型医療機関からの加工受託件数が直近四半期で減少

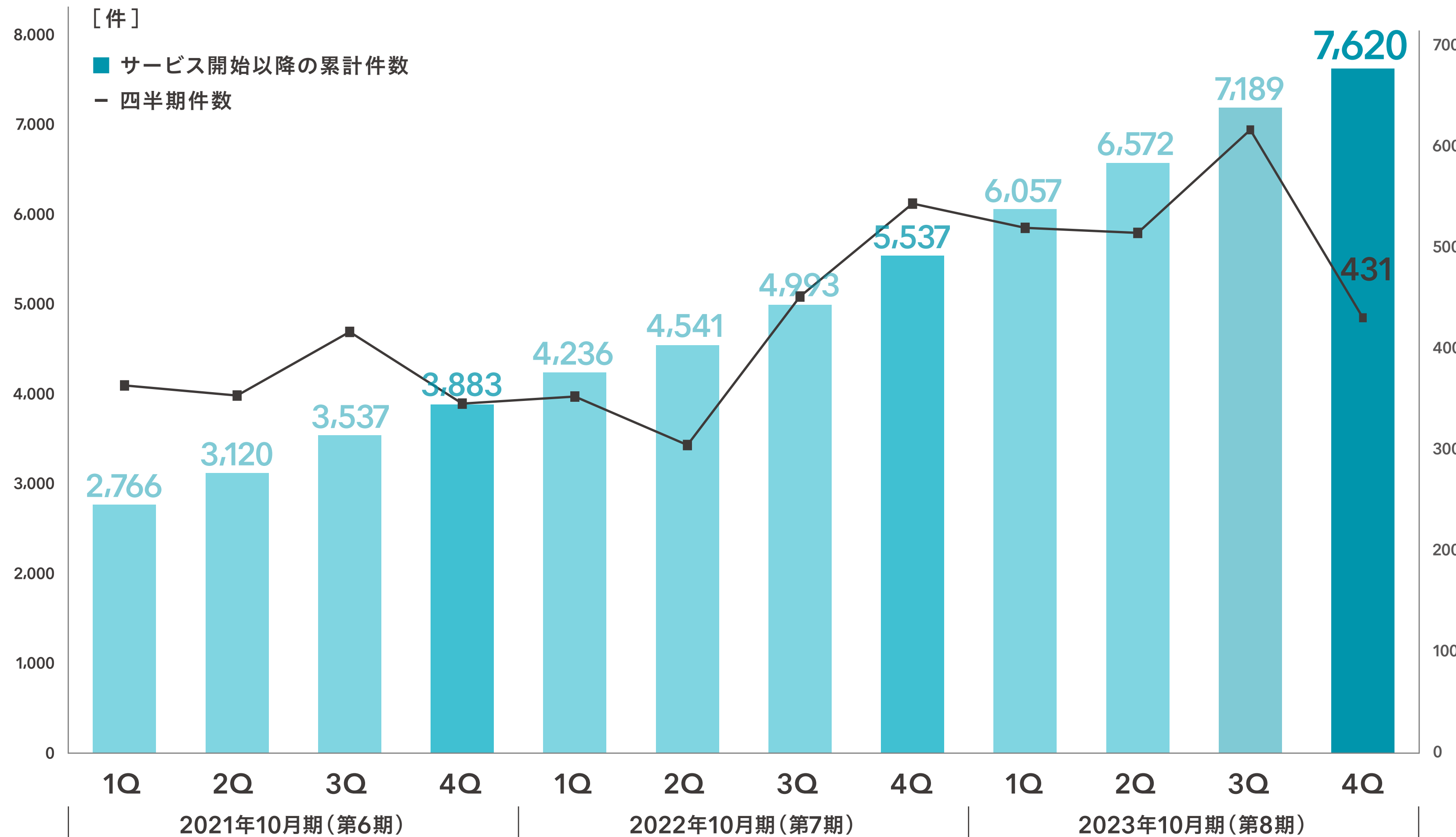


累計 **73,670** 件

当期累計 **24,550** 件

(前期比 +14.1%)

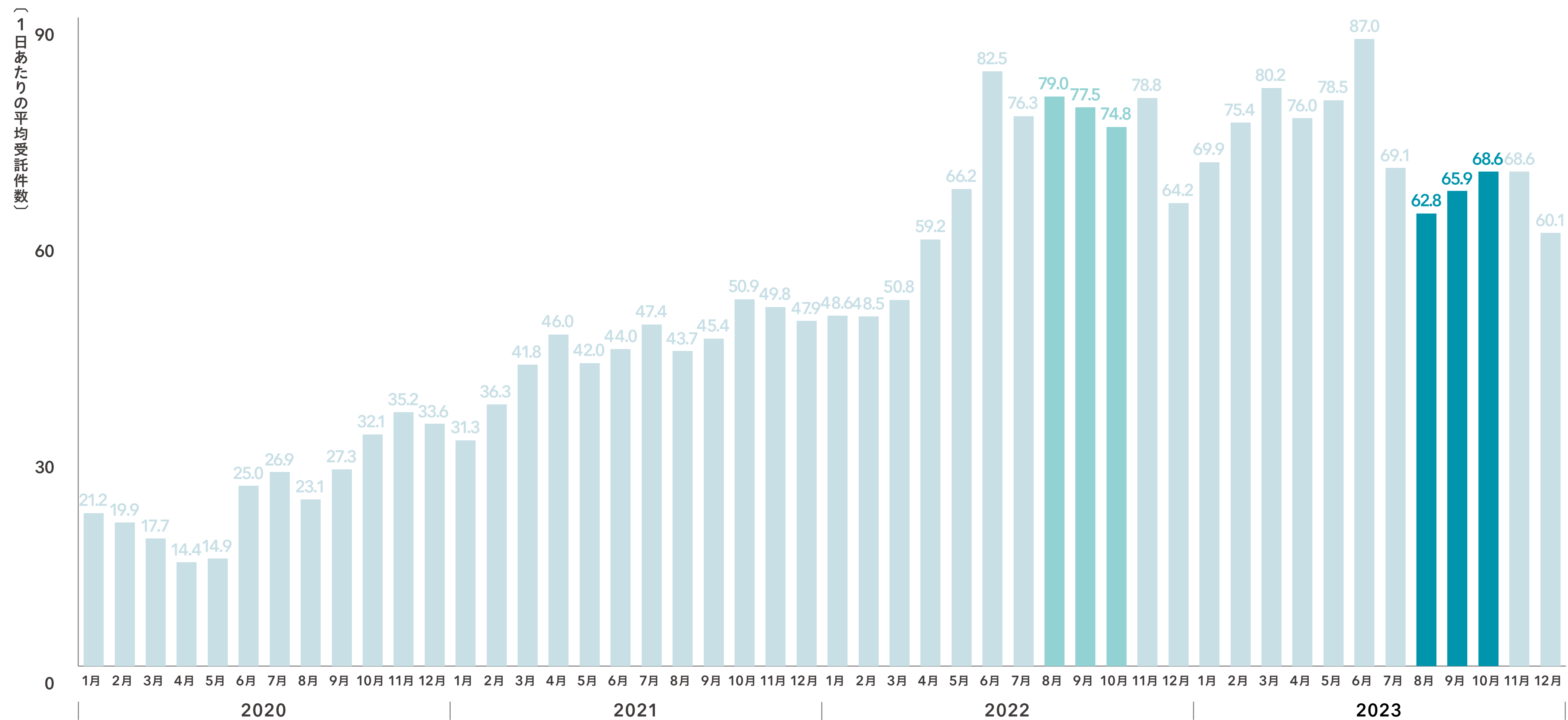
自費診療特化型医療機関からの加工受託件数が直近四半期で減少



累計 **7,620** 件

当期累計 **2,083** 件
(前期比 +25.9%)

1日あたりの平均加工受託件数の推移



※2023年12月の平均加工受託件数は、12月1日から12月13日までの期間における平均値です。

セルソース
グロースレートの

34.4%

※セルソースグロースレート=売上高成長率+EBITDAマージン

売上高成長率

+5.5%

※前期比

EBITDAマージン

28.9%

人的資本ROI

104.0%

※人的資本ROI=EBITDA÷人件費

社員数
(FTEベース)

182人

※ FTE(フルタイム当量) = 社員の総労働時間 ÷ (勤務日数 × 8時間)

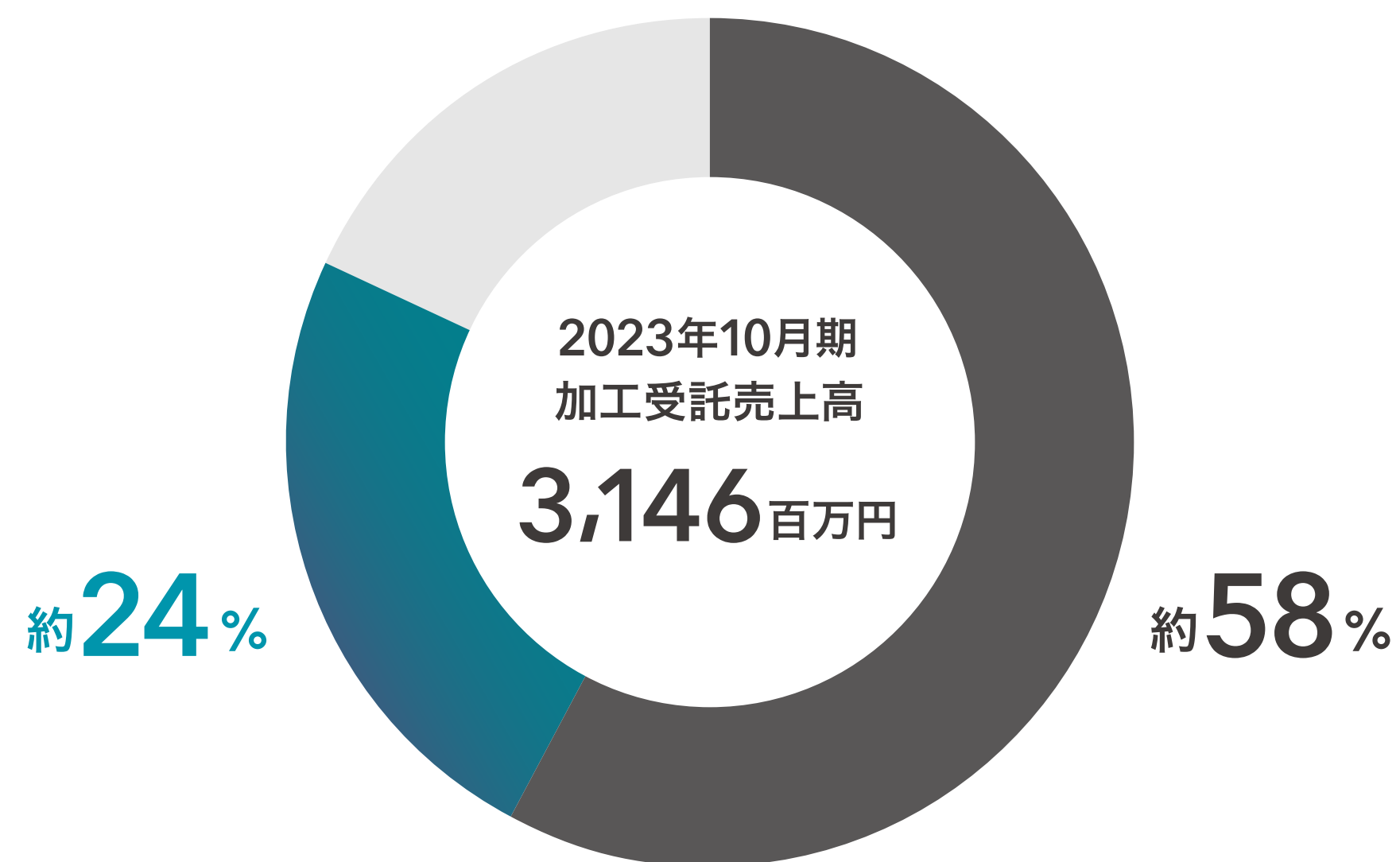
一人当たりEBITDA
(FTEベース)

7,167千円

(百万円)	2021/10期				2022/10期				2023/10期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	622	720	761	817	820	876	1,175	1,400	1,059	1,111	1,235	1,104
加工受託サービス	381	429	495	527	549	581	757	887	743	735	873	793
コンサルティングサービス	75	82	83	70	59	59	111	125	113	109	134	77
医療機器販売	135	176	143	186	171	159	171	166	180	177	166	179
化粧品販売その他	29	31	38	34	39	75	135	220	21	88	60	53
販売管理費	269	268	282	261	336	368	393	394	428	455	504	575
営業利益	180	242	256	313	244	246	448	632	351	308	383	178
四半期純利益	113	155	159	223	155	152	280	428	216	194	265	248
総資産	2,446	2,750	2,999	3,365	3,202	3,545	3,825	4,599	4,416	4,812	5,017	6,879
純資産	2,158	2,325	2,489	2,720	2,884	3,048	3,348	3,785	4,005	4,201	4,487	6,201
EBITDA	192	255	269	329	257	261	464	649	366	323	403	208
FTE	96	103	111	119	130	142	145	153	160	176	191	198
一人当たりEBITDA (千円)	1,999	2,489	2,421	2,771	1,974	1,844	3,193	4,250	2,297	1,836	2,112	1,050
加工受託件数 (件)	3,067	3,690	4,091	4,294	4,488	4,711	6,892	7,071	6,520	6,878	7,186	6,049
脂肪由来幹細胞加工受託件数 (件)	364	354	417	346	353	305	452	544	520	515	617	431
血液由来加工受託件数 (件)	2,703	3,336	3,674	3,948	4,135	4,406	6,440	6,527	6,000	6,363	6,569	5,618
期末提携医療機関数 (院)	653	767	910	1,028	1,109	1,204	1,301	1,378	1,455	1,557	1,654	1,749

加工受託サービスに関する 現状分析と今後の方針

整形外科領域のうち、半数以上の売上高を占める自費診療特化型医療機関における4Qの売上高が減少
一方で、ハイブリッド型医療機関の売上高は、提携医療機関の増加に伴い順調に成長



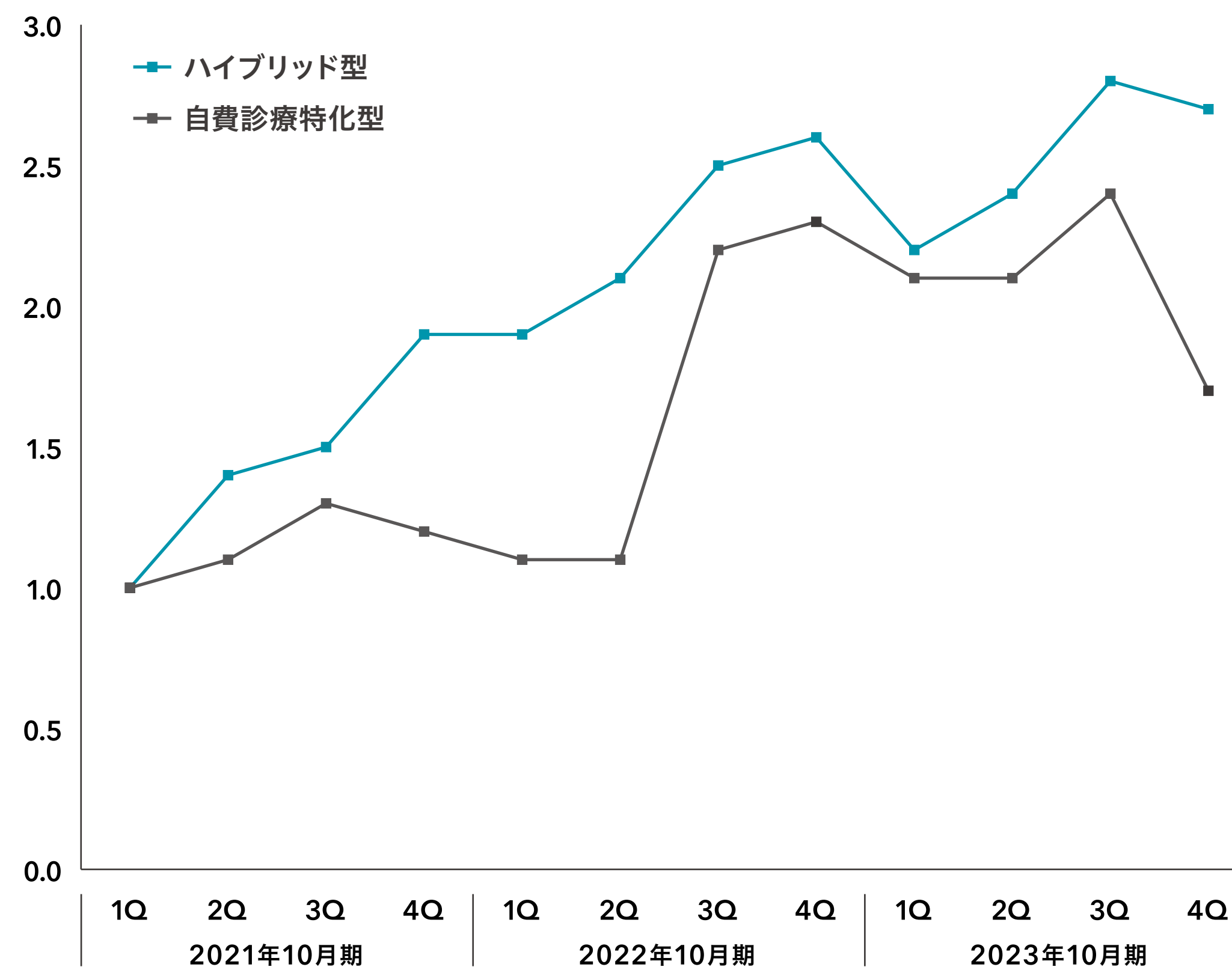
整形外科-ハイブリッド型

- 保険診療と自費診療の両方を取り入れる医療機関
- 多数の医療機関で分散されていることから、全体で見た売上高のボラティリティは限定的

整形外科-自費診療特化型

- 自費診療に特化した医療機関
- 院数が限定的な為、各院の売上動向の影響を大きく受ける
- 広告環境や医師の技量・評判等の影響を受けやすい

2021年10月期1Qの売上高*を1とした場合の推移



* 整形外科領域の血液由来加工受託サービス及び脂肪由来幹細胞加工受託サービスの合計売上高

ハイブリッド型医療機関における売上高は着実に伸長しており、今後も巨大な成長ポテンシャルが存在
自費診療特化型の依存度を低減させながら、ハイブリッド型の開拓を強化し、安定的な成長の実現を目指す

整形外科
ハイブリッド型

- これまで安定的に売上高が成長
- 提携医療機関数の拡大及び各院あたり受託件数の伸長の余地が大きく、依然として巨大な売上成長ポテンシャルが存在

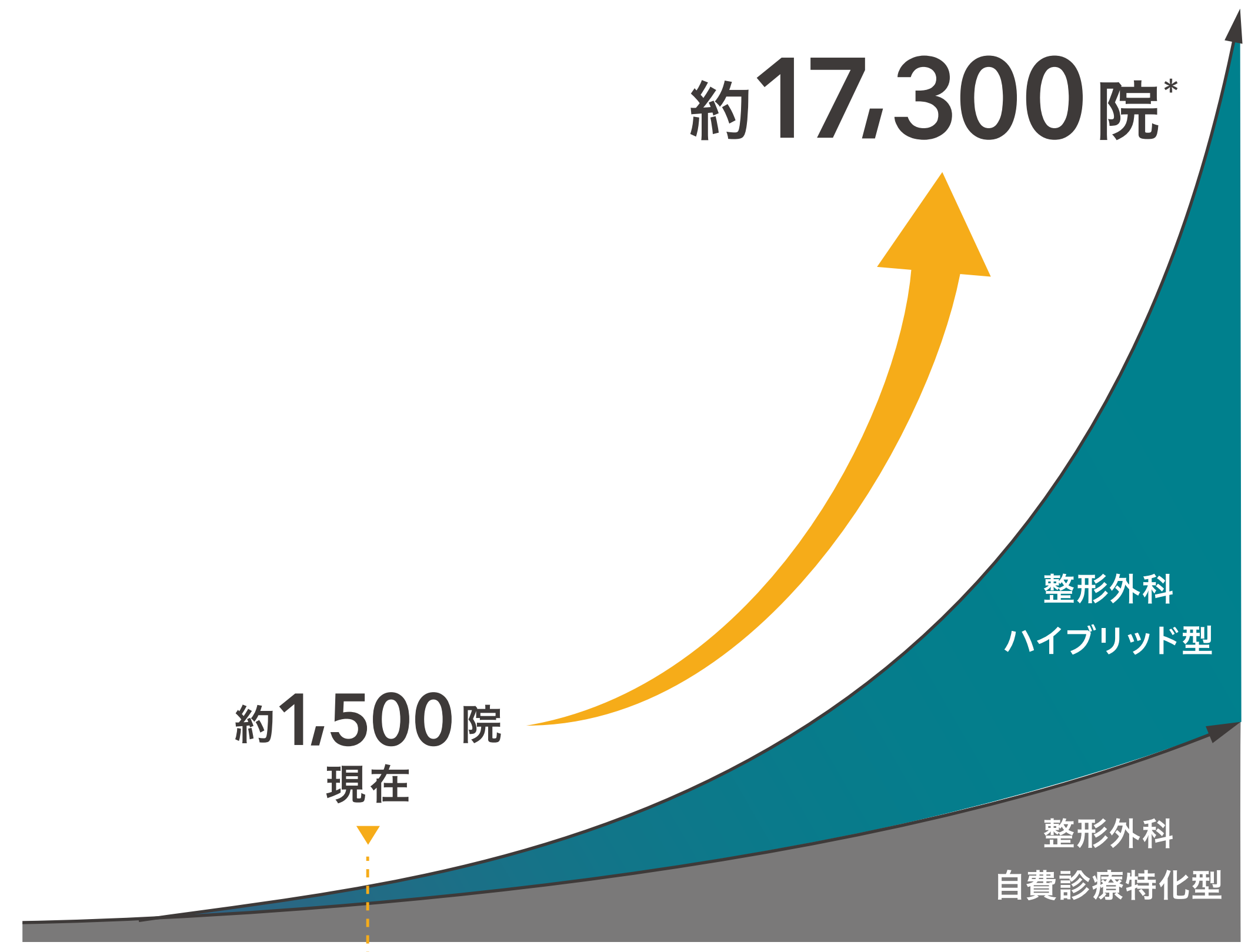
営業強化等を通じて、
売上成長に向けた攻勢を強める

整形外科
自費診療特化型

- 対象院数は少ないが、各院の収益貢献が大きい
- 診療報酬改定等の影響で、今後自費診療に特化した医療機関が増加する見込み

売上成長は保守的に見込みつつ、
依然として大きな成長余地は存在

整形外科領域の売上成長イメージ



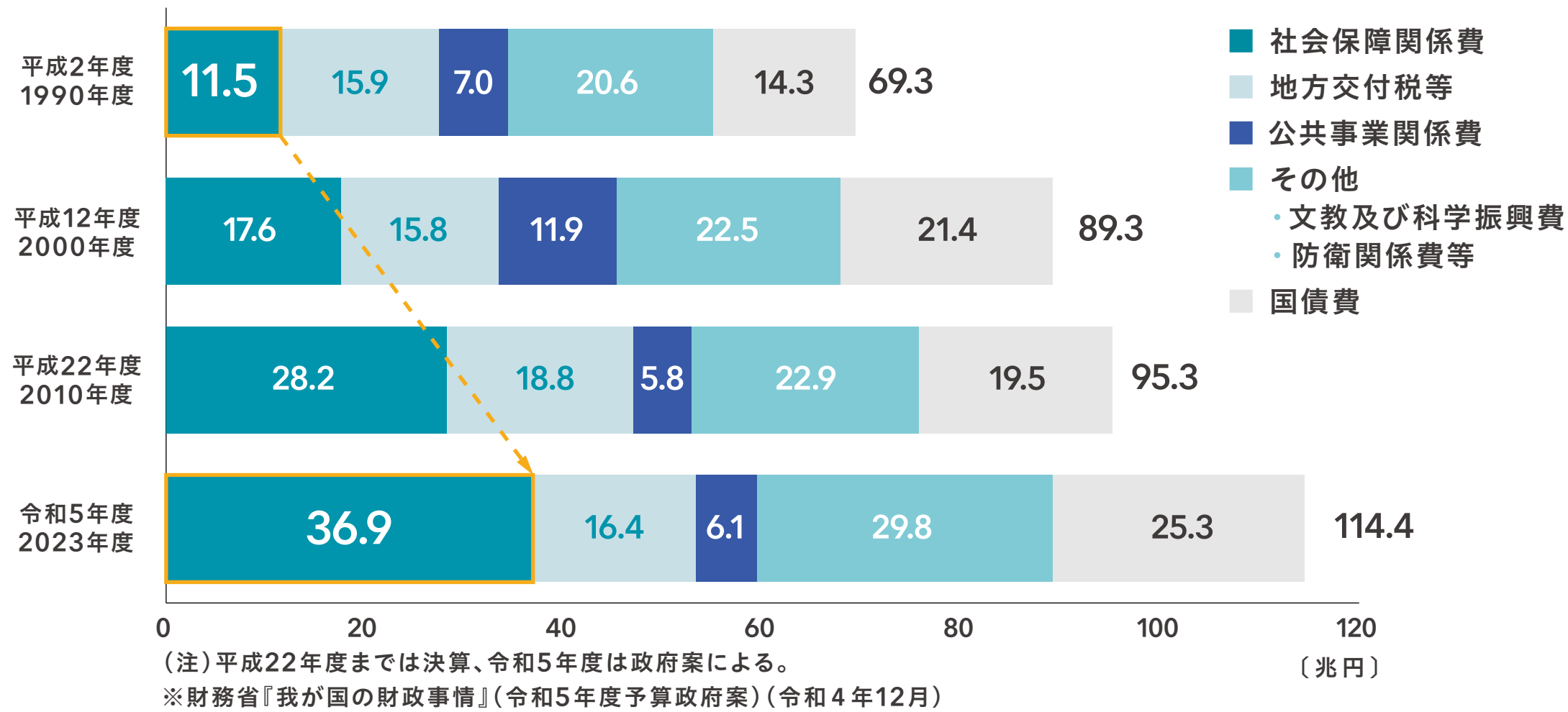
* 厚生労働省『令和2(2020)年医療施設(静態・動態)調査(確定数)・病院報告の概況』に基づく推計

ハイブリッド型医療機関は、提携医療機関数及び1院あたり受託件数の双方で巨大なポテンシャルが存在



具体的な施策や目標については、
今期中に中期経営計画として開示予定

増加の一途を辿る社会保障関係費



医療機関を取り巻く外部環境

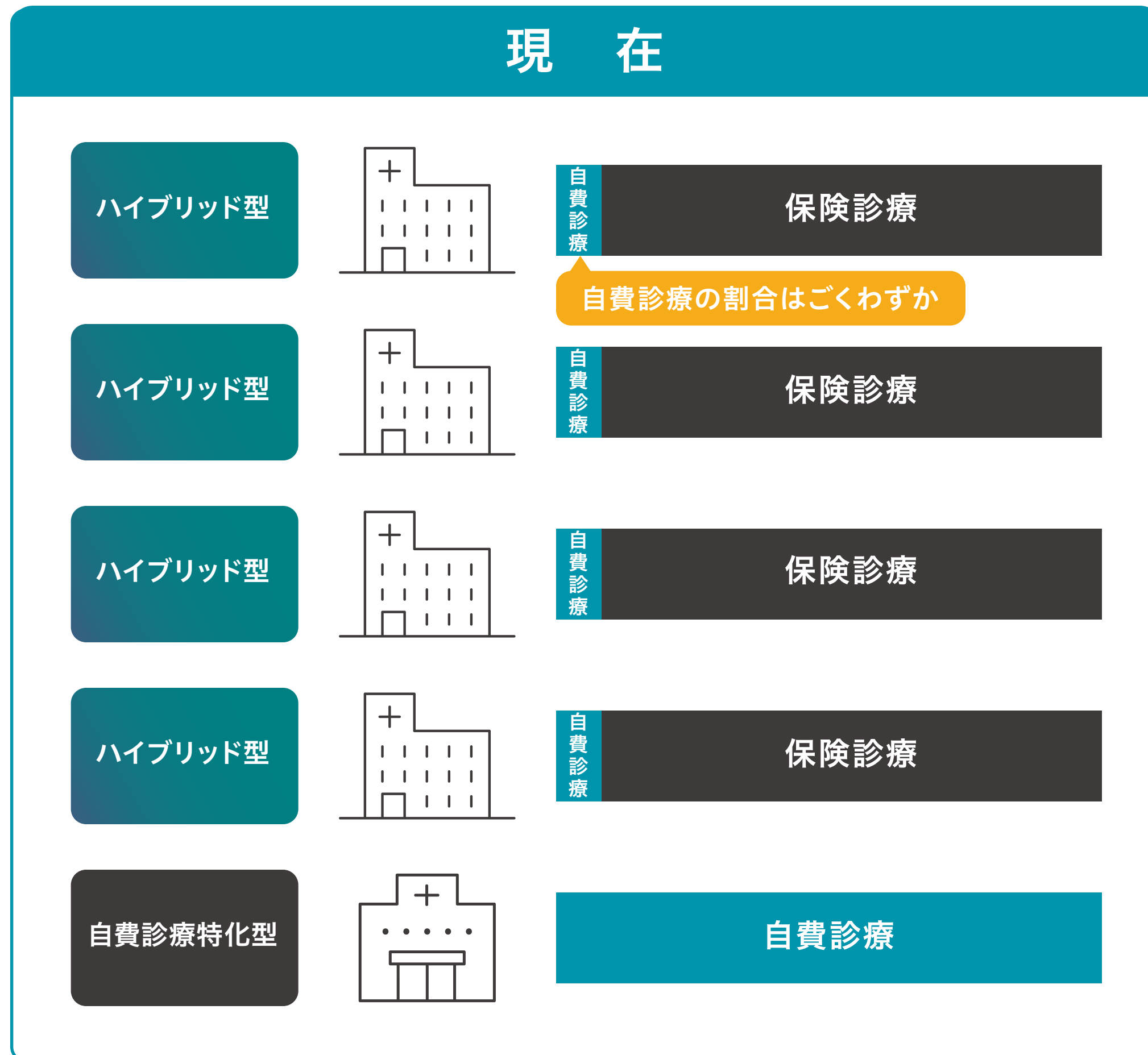
- 2024年6月に医療・介護・障害福祉サービスの診療報酬が改定予定
- 再生医療の普及拡大により、エビデンスが蓄積
- 再生医療による治療法に関する認知度が向上

見込まれる変化

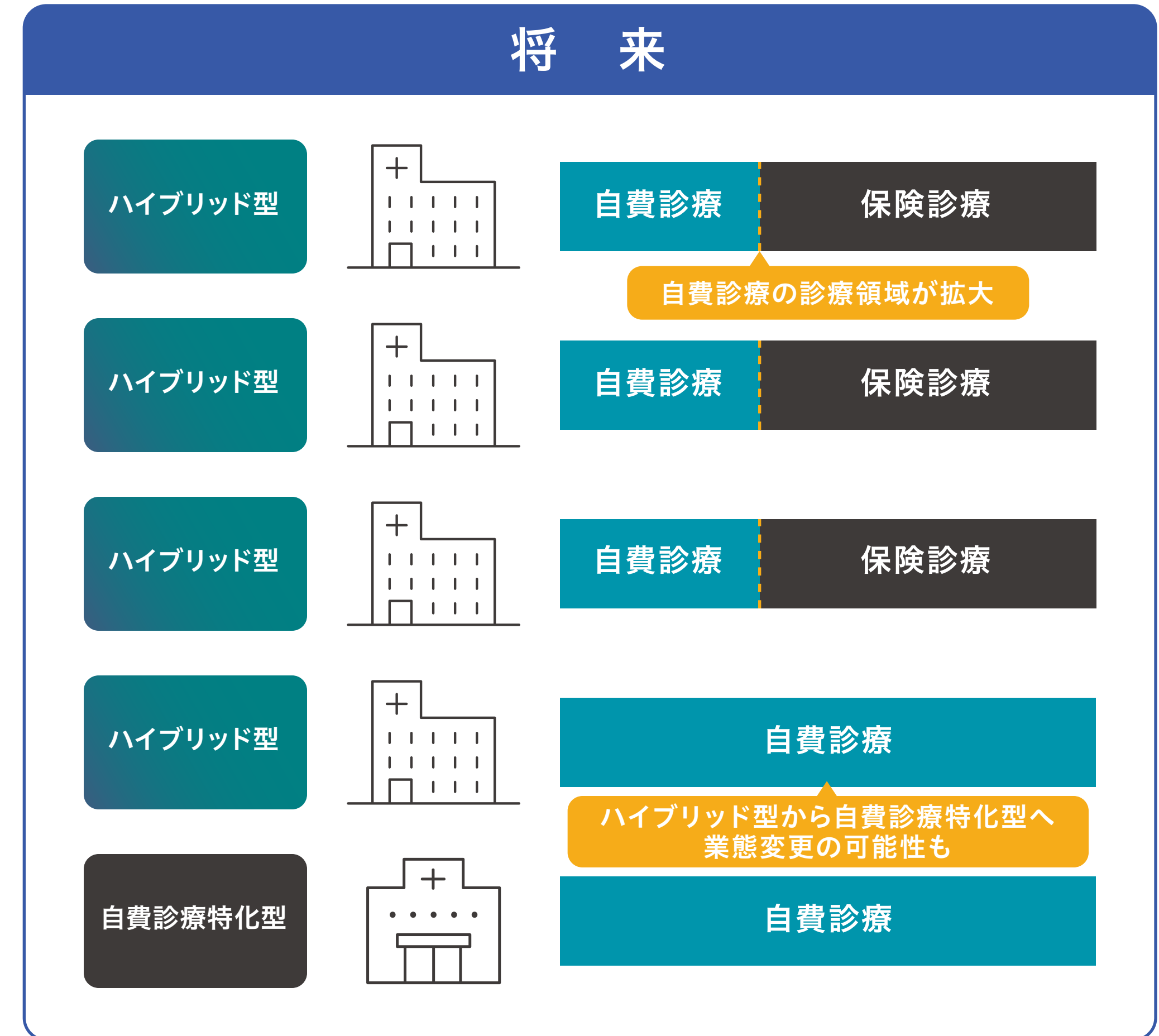
- 保険診療特化型医療機関が自費診療を取り入れる
- ハイブリッド型医療機関における自費診療の比率が高まる
- 自費診療特化型の医療機関が増加する

外部環境を背景に、自費診療特化型医療機関の増加と、
ハイブリッド型医療機関における自費診療のシェア拡大が見込まれる

現在



将来



事業ハイライト



ZERO LAB

概要

【所在地】

〒210-0821
神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-22

【品質基準(予定)】

再生医療関連事業における細胞培養加工施設

【延床面積】

2,303㎡

【移管予定業務】

組織・細胞の加工・保管、研究開発

【設備投資の額】

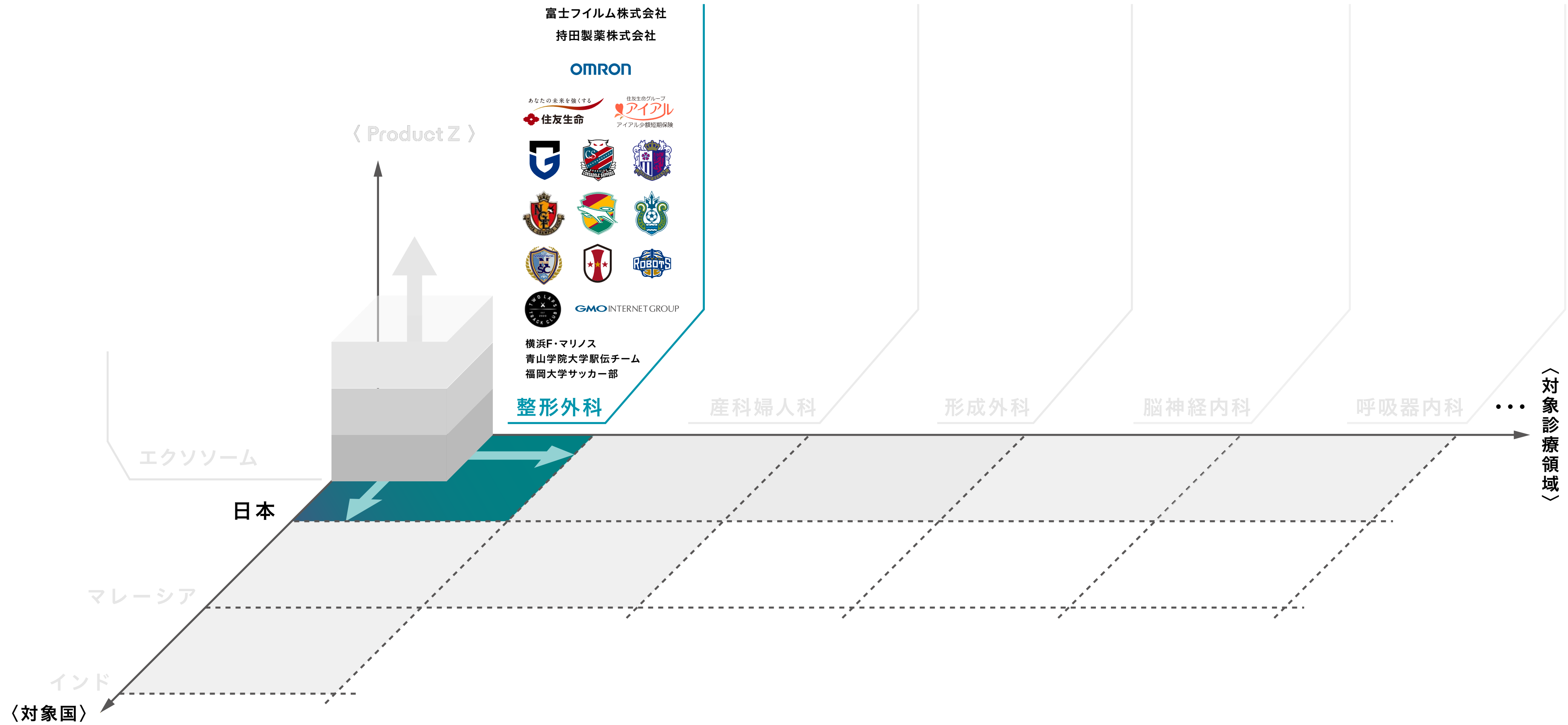
50,000千円

【稼働開始時期】

2023年11月



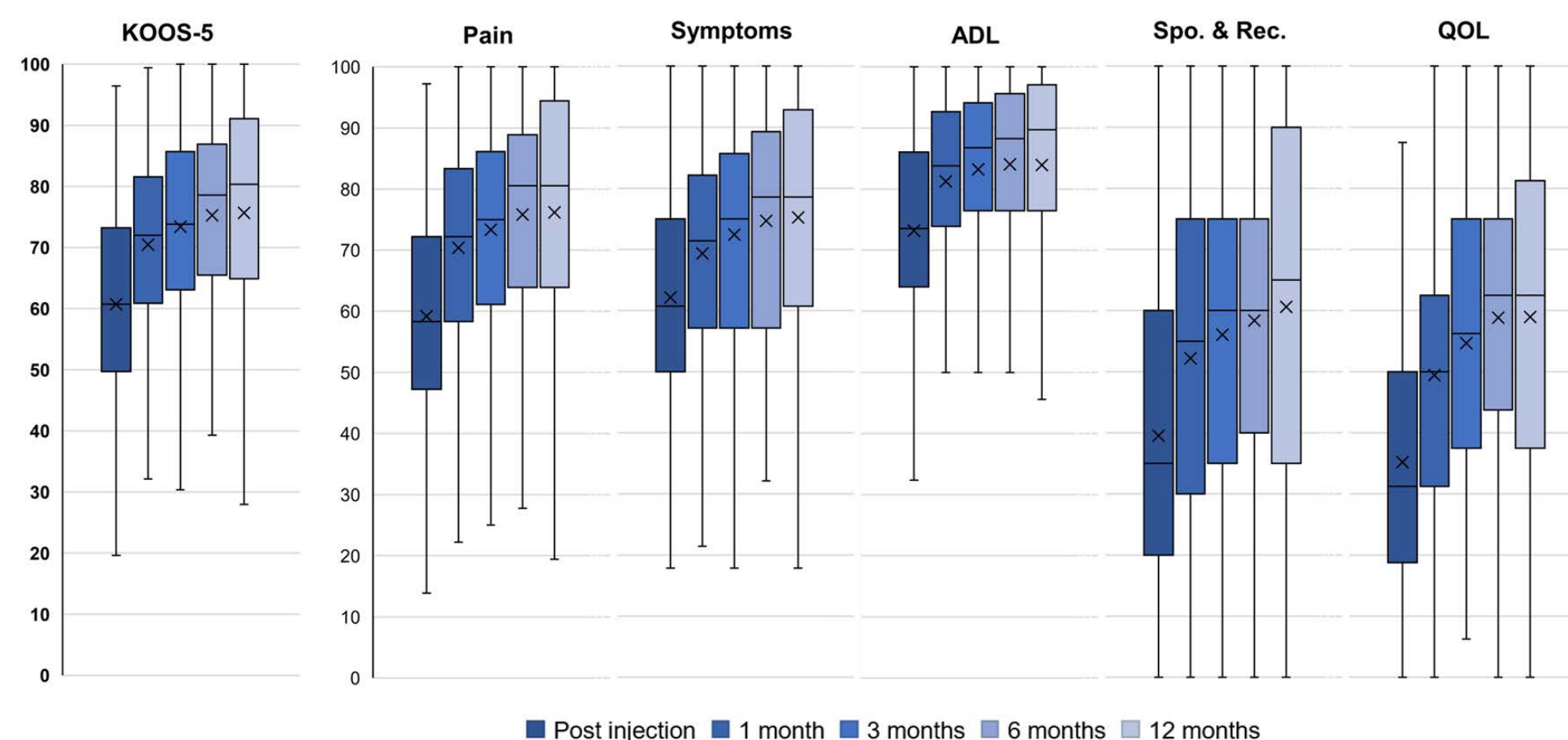
※形成外科領域、マーケティング支援事業、マーケティング支援事業・データ活用事業に関しては、引き続き事業継続をしておりますが、投資判断に影響を及ぼす事業進捗がないことから、記載を省略しております。投資判断に影響を及ぼす進展があれば、適宜、適切な方法で速やかに開示します。 ※当社が事業開始している領域に色を付けて区分しております。



※形成外科領域、マーケティング支援事業、マーケティング支援事業・データ活用事業に関しては、引き続き事業継続をしておりますが、投資判断に影響を及ぼす事業進捗がないことから、記載を省略しております。投資判断に影響を及ぼす進展があれば、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

当社の血液加工受託サービスを利用した変形性膝関節症治療に対する初めての海外誌投稿

- KSSTA (欧州スポーツ外傷学、膝関節外科、関節鏡学会の公式ジャーナル[インパクトファクター:3.9])に掲載*
- セルソースのPFC-FD™の有効性と安全性の発信
- 従来のPRP治療と比較し、常温保管可能なPFC-FD™の輸送時の安定性を指摘
- 本邦における変形性膝関節症に対するバイオセラピーの現状も報告



患者報告式アウトカム尺度において、ベースライン、1、3、6、12か月後における膝OAのアウトカムスコアはすべての時点でベースラインと比較して優位に改善(p<0.01)

* Ohtsuru, T., Otsuji, M., Nakanishi, J., Nakamura, N., Lyman, S., Hanai, H., Shimomura, K., & Ando, W. (2023). Freeze-dried noncoagulating platelet-derived factor concentrate is a safe and effective treatment for early knee osteoarthritis. *Knee surgery, sports traumatology, arthroscopy* : official journal of the ESSKA, 31(11), 4716–4723. <https://doi.org/10.1007/s00167-023-07414-y>



Knee Surgery, Sports Traumatology, Arthroscopy (2023) 31:4716–4723
<https://doi.org/10.1007/s00167-023-07414-y>

KNEE



Freeze-dried noncoagulating platelet-derived factor concentrate is a safe and effective treatment for early knee osteoarthritis

Tadahiko Ohtsuru^{1,2} · Masaki Otsuji³ · Jun Nakanishi⁴ · Norimasa Nakamura⁵ · Stephen Lyman^{6,7} · Hiroto Hanai⁸ · Kazunori Shimomura⁸ · Wataru Ando⁸

Received: 1 December 2022 / Accepted: 2 April 2023 / Published online: 28 June 2023
 © The Author(s) 2023

Abstract

Purpose While a wide variety of platelet-rich plasma (PRP) solutions has been developed, innovation continues. In this case, the freeze-dried platelet factor concentrate (PFC-FD) represents another step in PRP refinement. The preparation of PFC-FD at a central laboratory with freeze drying for shelf stabilization should provide additional quality improvements if clinical effectiveness can be demonstrated. Therefore, this study was undertaken to assess the safety and effectiveness of PFC-FD in a prospective open-label trial of patients suffering from knee osteoarthritis (OA).

Methods 312 consecutive knee OA patients (67% female, mean age 63 ± 10 years), were prospectively recruited in an outpatient knee clinic in Japan. Of these, 10 (3.2%) were lost to follow-up at < 12 months and 17 (5.5%) sought additional knee therapy during the follow-up period. The primary outcome of interest was achievement of the OMERACT-OARSI responder criteria with secondary outcomes of adverse events and PROMs scores 1, 3, 6, 12 months following a single PFC-FD injection.

Results 285 patients (91%) completed 12 month PROMs. The 17 who sought additional therapy were considered failures leaving an effective sample size of 302 for our primary outcome in which 62% of patients achieved OMERACT-OARSI responder status by 12 months. This varied by OA class with Kellgren–Lawrence grade 4 patients 3.6 times less likely to be responders than grade 1–2 patients. 6% of patients experienced a non-serious adverse event, primarily pain or swelling at the injection site.

Conclusions PFC-FD provides an observable clinical improvement in 62% of knee OA patients at 12 months post-injection with very little risk of any clinically relevant adverse event. Of course, nearly 40% of patients did not experience an observable clinical improvement, primarily among those with worse KL grades.

Level of evidence Therapeutic, Level II.

Keywords Osteoarthritis · Platelet-rich plasma · Freeze-dried · Clinical outcomes · Knee osteoarthritis

Introduction

Management of painful knee osteoarthritis (OA) remains a challenging dilemma for clinicians and patients alike. Established conservative therapies address symptoms while lacking disease modifying properties. The search for a truly disease modifying OA treatment has led physicians and scientists to biologic therapies such as mesenchymal stem cell or platelet-rich plasma (PRP) injections, the latter of which has become a common treatment option. An extension of PRP is the use of noncoagulating platelet-derived factor concentrate (PFC) [1], which maximizes platelet concentration while removing fibrinogen.

✉ Norimasa Nakamura
 norimasa.nakamura@ohsu.ac.jp

- 1 Omiya Knee Osteoarthritis Clinic, Saitama, Japan
- 2 Department of Orthopedic Surgery, Tokyo Women's Medical University School of Medicine, Tokyo, Japan
- 3 Yokohama Knee Osteoarthritis Clinic, Kanagawa, Japan
- 4 Tokyo Knee Osteoarthritis Clinic, Tokyo, Japan
- 5 Osaka Health Sciences University, Osaka, Japan
- 6 Hospital for Special Surgery, New York, NY, USA
- 7 Kyushu University School of Medicine, Fukuoka, Japan
- 8 Department of Orthopedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan

Springer

※PFC-FDはセルソース株式会社の保有する商標です。

臨床応用開始

- 東京医科歯科大学で初の臨床応用開始
- 日本膝関節学会での発表(12月8日開催)を契機に認知拡大へ
- 2023年サービス開始公表以降、総合病院を中心に提携医療機関を開拓
- 2024年10月期に100件以上の受託を目指す

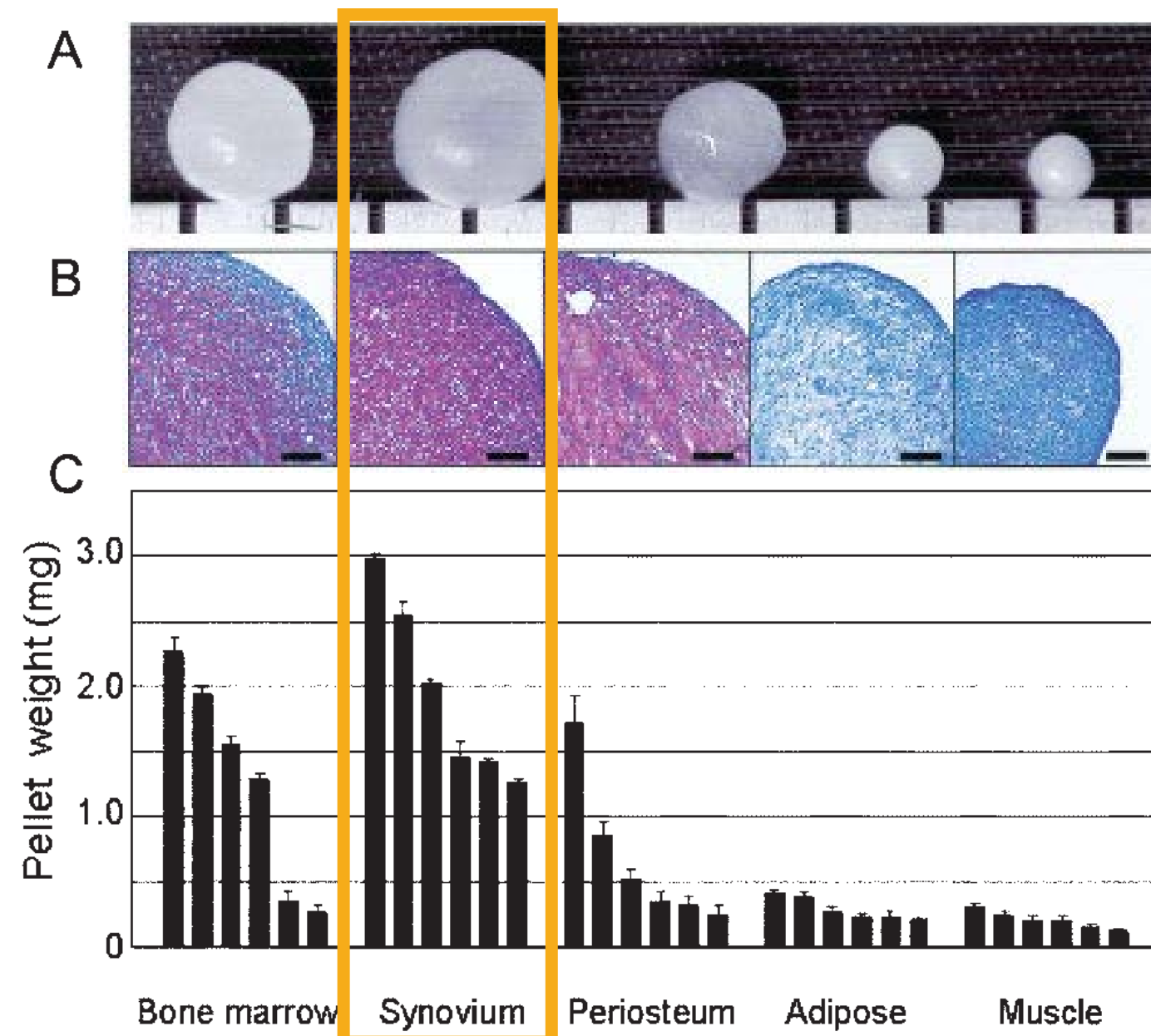
契約医療機関 8院

- 東京医科歯科大学
- 神戸大学附属病院
- 獨協医大埼玉医療センター
- 重工記念病院
- 福岡整形外科病院
- いちはら病院
- +2医療機関

滑膜由来幹細胞のポテンシャル

- 膝から採取した滑膜由来幹細胞は膝の関節治療に有効
- 滑膜由来幹細胞は優れた軟骨分化能を有する
- セルソースが受託加工できるサービスが拡大

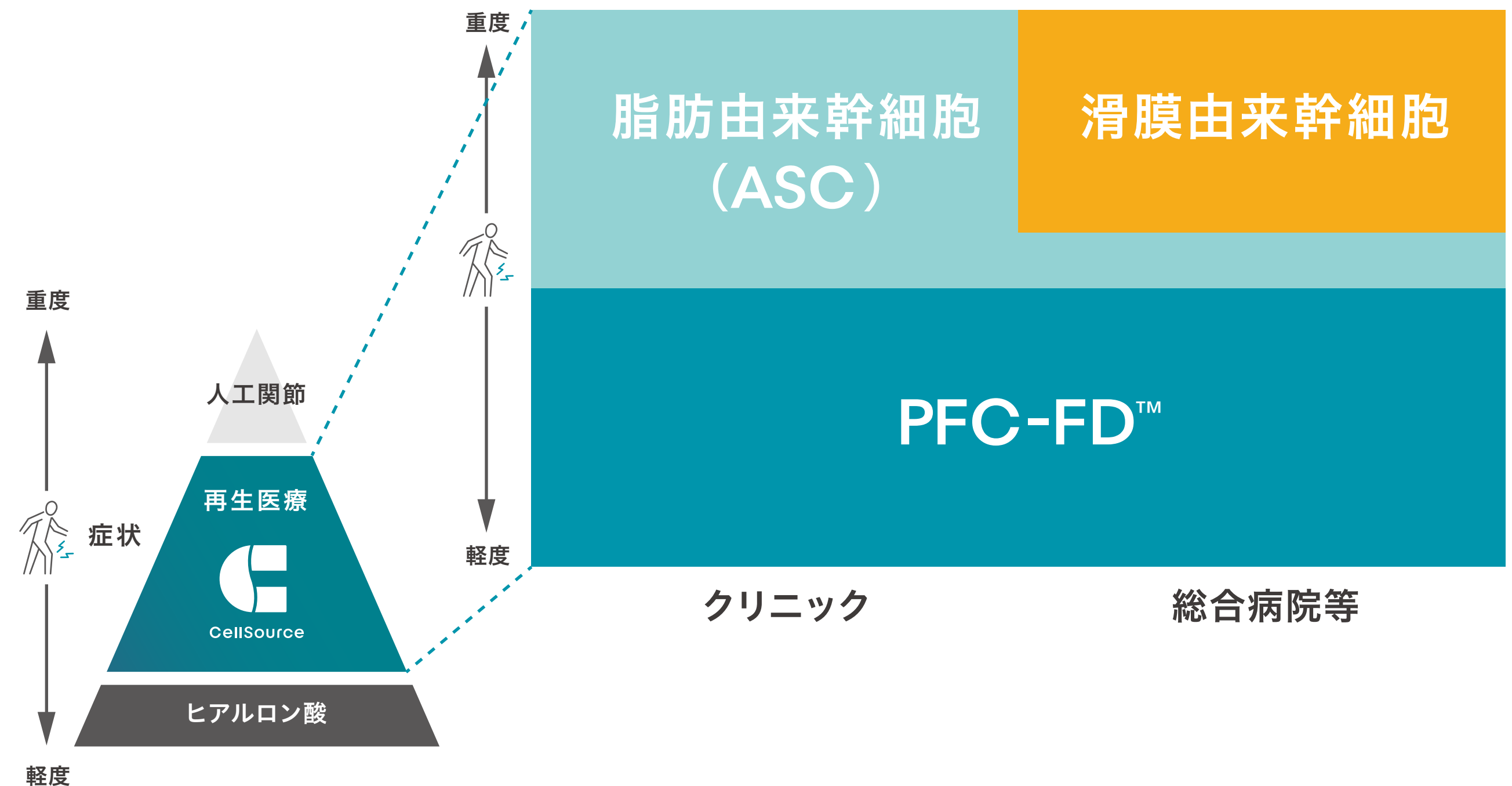
幹細胞の軟骨生成能力比較



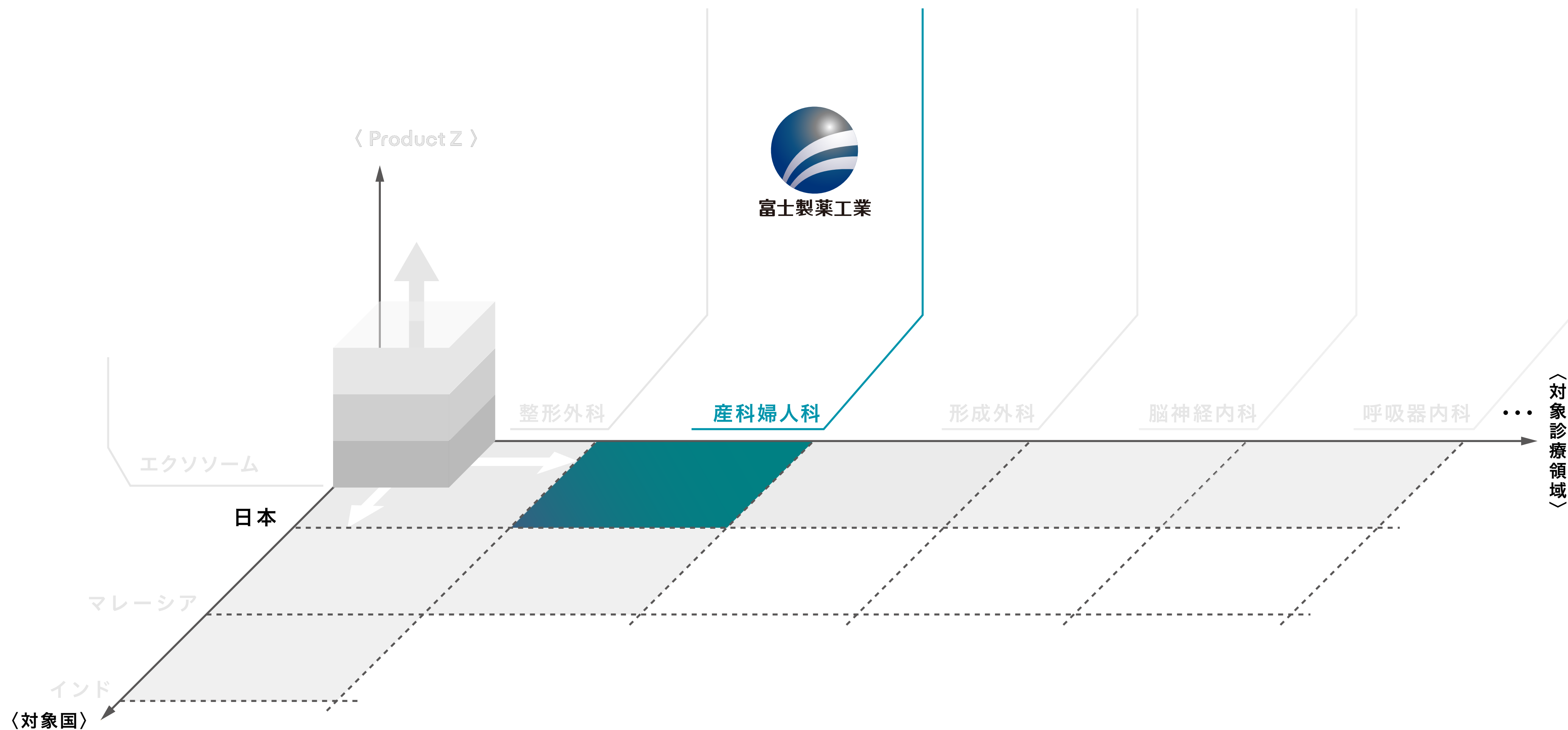
- 優れた軟骨再生能力を有する*

* Sakaguchi Y, Sekiya I, Yagishita K, Muneta T. Comparison of human stem cells derived from various mesenchymal tissues: superiority of synovium as a cell source. Arthritis Rheum. 2005 Aug; 52(8): 2521-9

膝関節治療におけるセルソースのサービス領域



※PFC-FDはセルソース株式会社の保有する商標です。



※形成外科領域、マーケティング支援事業、マーケティング支援事業・データ活用事業に関しては、引き続き事業継続をしておりますが、投資判断に影響を及ぼす事業進捗がないことから、記載を省略しております。投資判断に影響を及ぼす進展があれば、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

安定的な収益拡大が見込める ストックビジネス

2024年10月期1Qの事業開始

長期継続利用が前提となる
積み上げ型のストックビジネス



月額保管料による安定した
キャッシュフローが見込める



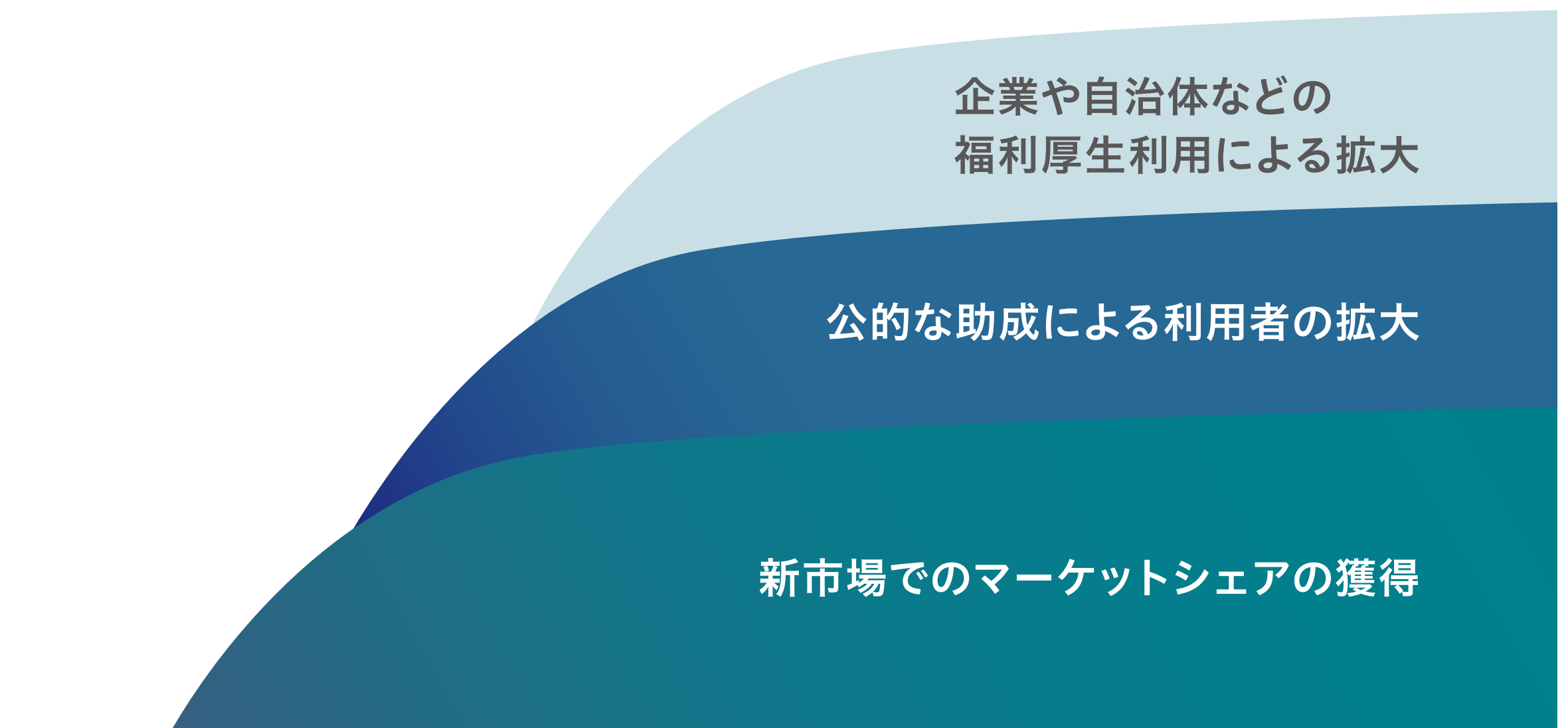
- 新市場が創設される中、セルソースは加工受託実績に裏付けられた優位性を有する
- 東京都の先行事例に見られる公的助成枠組み拡大の期待
- 企業の福利厚生利用など外部環境は追い風

卵子凍結保管数の蓄積イメージ

企業や自治体などの
福利厚生利用による拡大

公的な助成による利用者の拡大

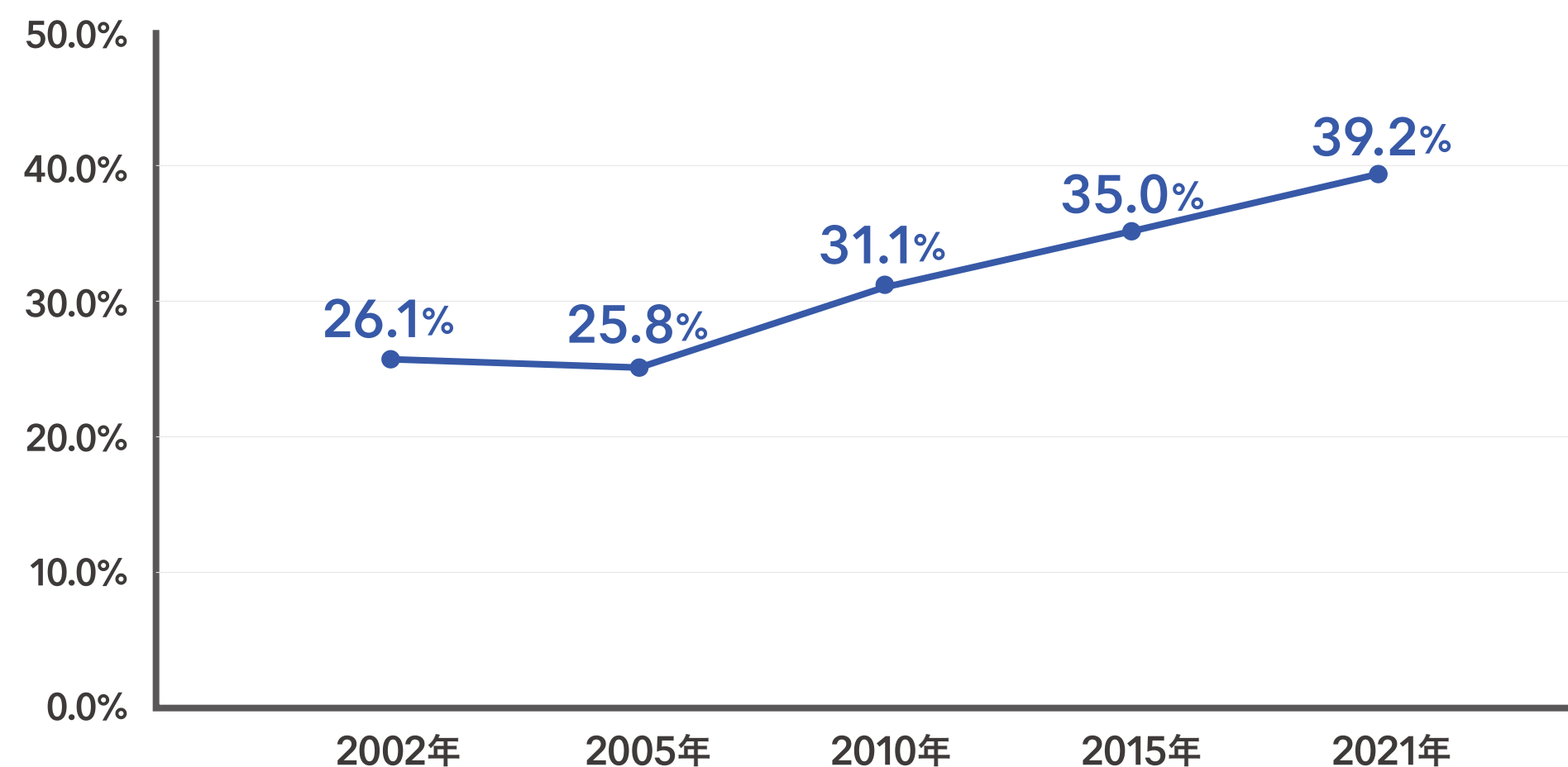
新市場でのマーケットシェアの獲得



ライフプランの選択肢としての 卵子凍結ニーズの高まり

- 約4.4組に1組のカップルが不妊の検査や治療を受けており、その比率は増加の一途
- 卵子凍結は女性のライフプランの選択肢として関心が高まっている
- 東京都は2023年9月「卵子凍結に係る費用」及び「凍結卵子を使用した生殖補助医療」への助成を開始

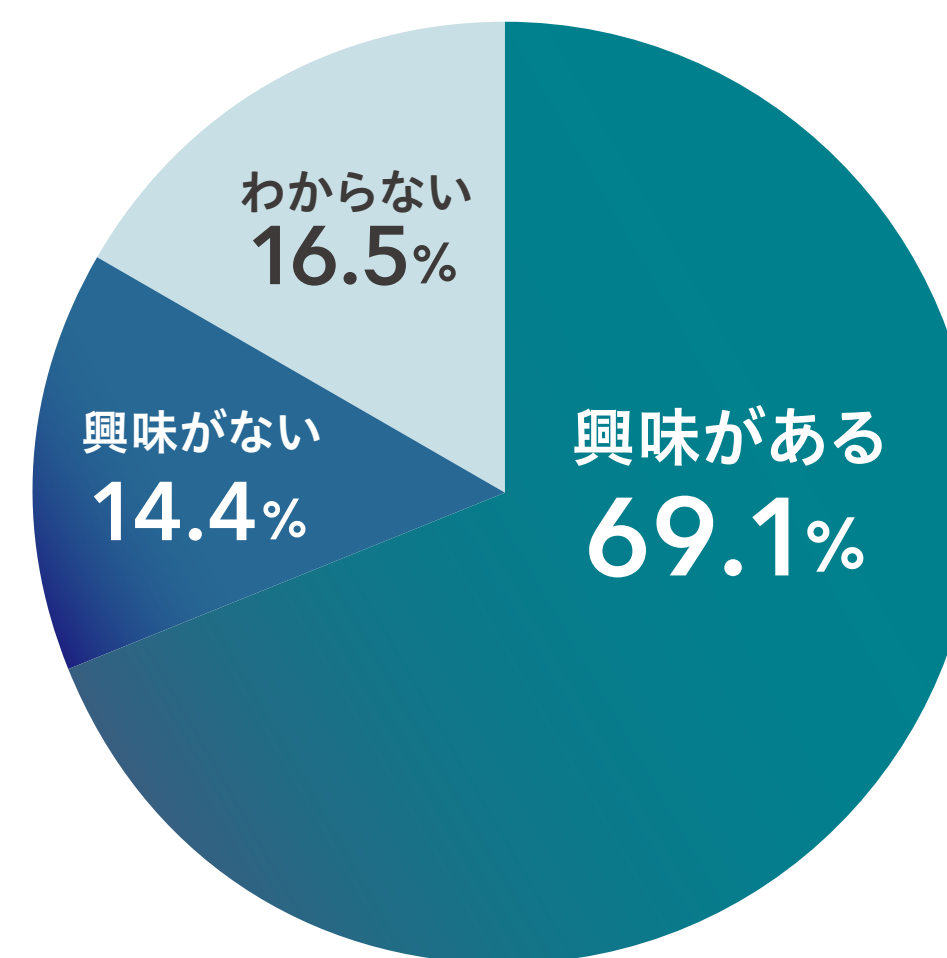
不妊を心配したことがある夫婦の割合*1



*1 厚生労働省『不妊治療と仕事との両立サポートハンドブック』に基づき作成

卵子凍結への興味有無*2

約70%の女性が興味を持っている



*2 日経Woman doors『卵子凍結×働くキャリア』読者アンケート結果に基づき作成

東京都の助成*3

卵子凍結実施時
上限**20万円**

次年度以降の保管
1年ごと**2万円**
(最大5年間)

合計**30万円**(最大)

東京都主催の説明会に**5,000人超**登録
30代女性が9割と報じられる*4

*3 東京都福祉局報道発表資料『2023年9月15日「卵子凍結に係る費用への助成」・「凍結卵子を使用した生殖補助医療への助成」を開始』

*4 読売オンライン2023年11月23日掲載『都の卵子凍結保存助成、オンライン説明会に5000人超の申し込み…9割が30代』

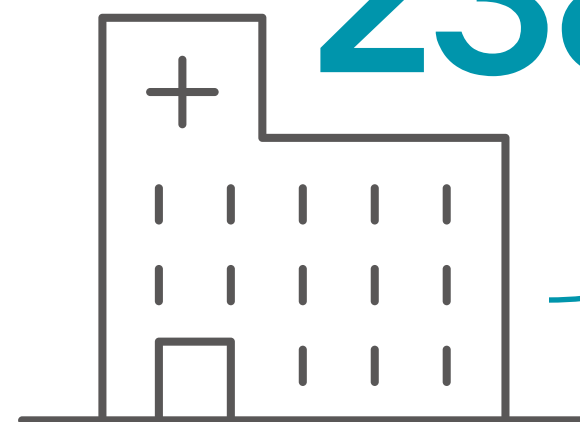
セルソースは4つの強みで 卵子凍結市場でのトップシェアを目指す

不妊治療医療機関数(全国)

619院

セルソース提携
医療機関数

238院



* 日本産婦人科学会「体外受精・胚移植に関する登録施設」「ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設」の施設検索結果(2023年12月時点)
https://www.jsog.or.jp/facility_program/search_result_facility.php

- 1 不妊治療医療機関全国登録施設619院のうち238院の産婦人科医院との契約を有する
- 2 加工受託サービスで培った超低温環境での長期保管技術と受託オペレーションを自社で提供可能
- 3 再生医療関連事業で培った特定細胞加工物製造許可(施設番号:FA3160006)取得水準の設備
- 4 盤石な経営基盤に裏付けられた事業の継続性

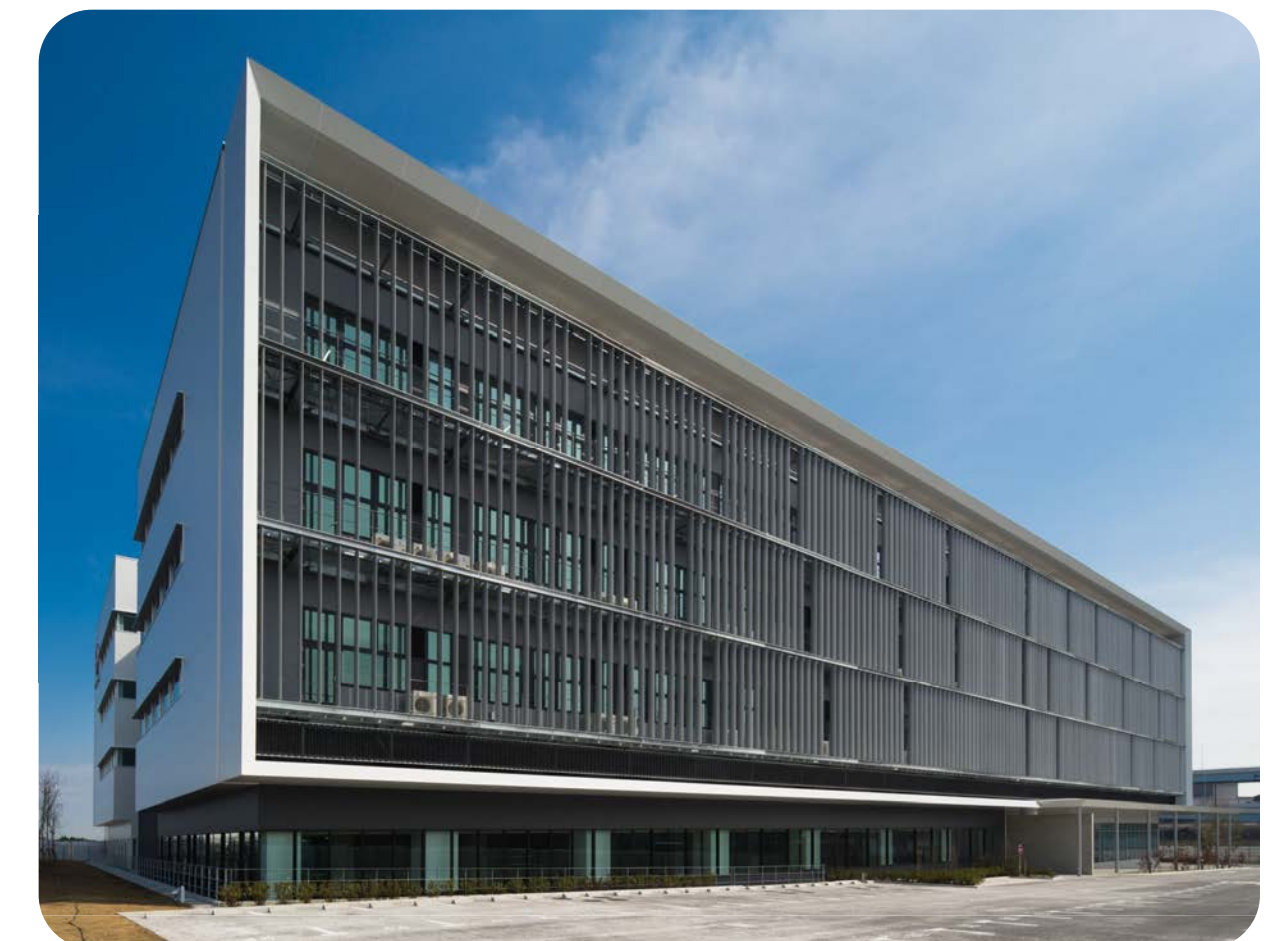
羽田グローバルCPC

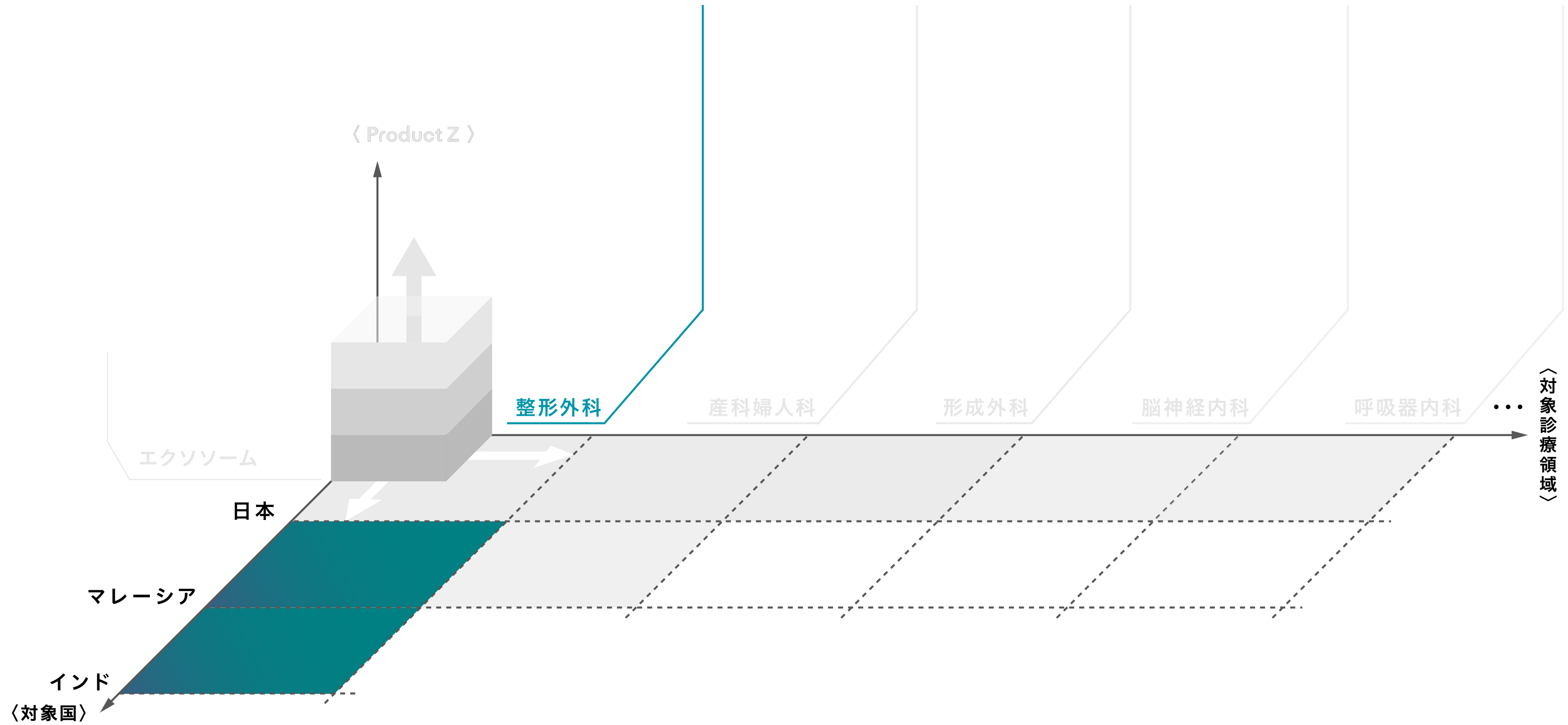
ZERO LAB

熟練の技術者とノウハウ



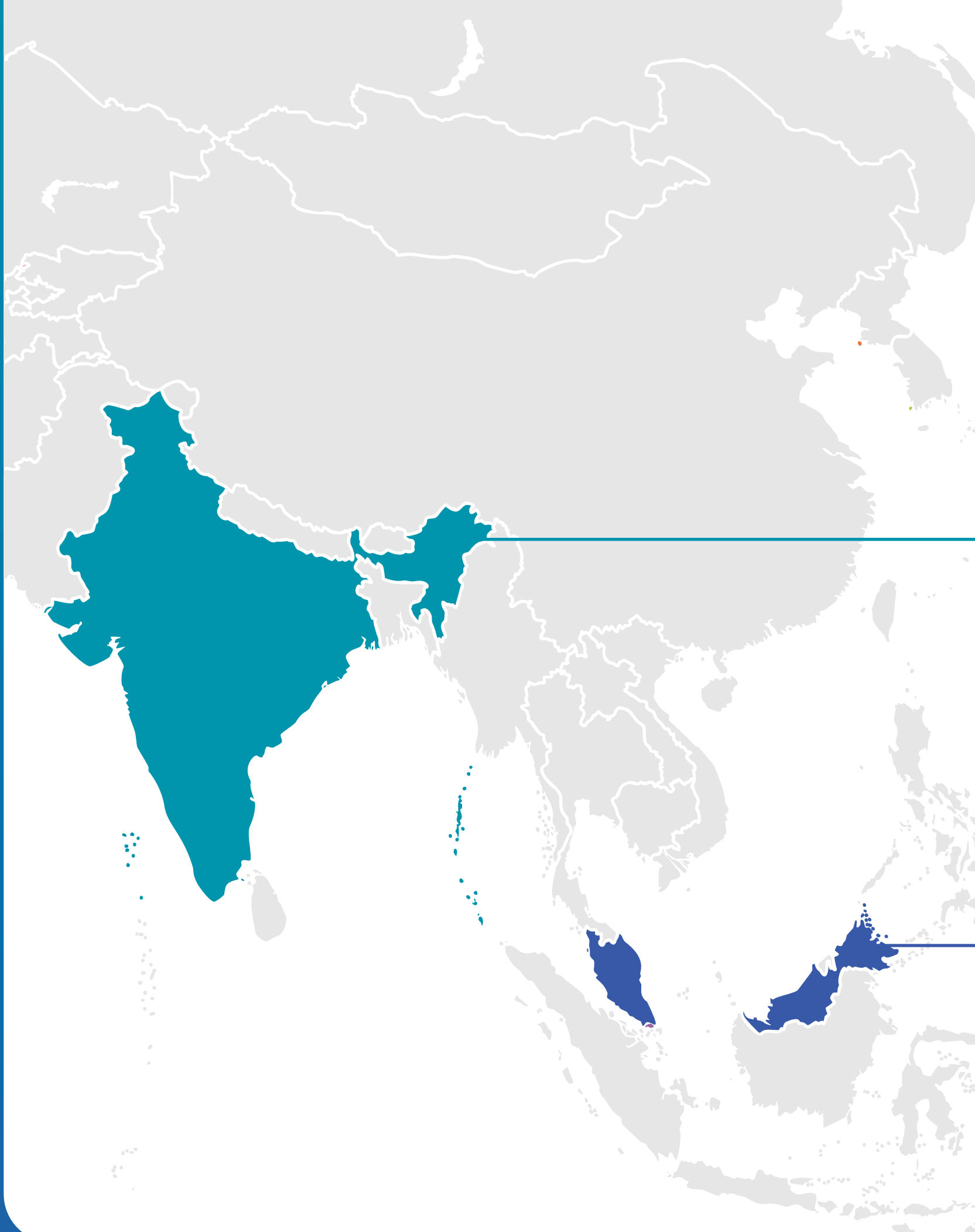
液体窒素の取り扱いに精通する
熟練の技術者





※形成外科領域、マーケティング支援事業、マーケティング支援事業・データ活用事業に関しては、引き続き事業継続をしておりますが、投資判断に影響を及ぼす事業進捗がないことから、記載を省略しております。投資判断に影響を及ぼす進展があれば、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

インドでは2024年10月期1Qの事業開始に向け、現地運営法人へ技術移管中



日本

総人口 **125**百万人^{*1} (2020年) 高齢者比率 **28.9%**→**38.4%**^{*1} (2020年) (2065年)

インド

インド・ベンガールの総合病院の運営法人にPFC-FD™の製造を許諾するライセンス契約を締結。PFC-FD™の初の海外臨床応用例に。

総人口 **1,353**百万人^{*2} (2018年) 高齢者比率 **6.2%**→**13.8%**^{*2} (2018年) (2050年)

×

現地の総合病院
運営法人

マレーシア

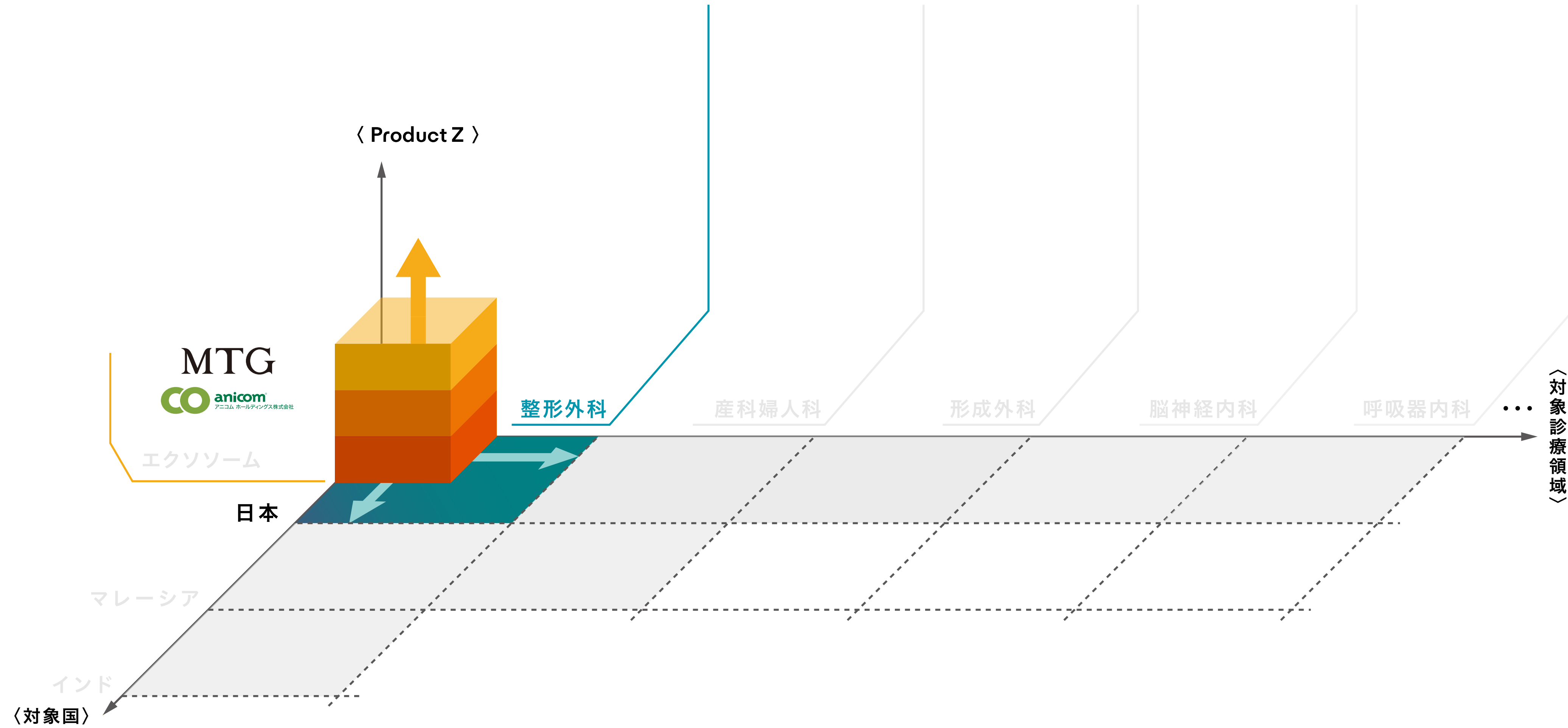
現地の上場企業であるTexchem Resources Berhadと共同出資の上、当社初の現地法人を設立予定。今後さらに医療へのニーズが高まると推察されるマレーシアにおいて、PFC-FD™の加工受託サービスを展開。

総人口 **32**百万人^{*3} (2018年) 高齢者比率 **6.7%**→**17.0%**^{*3} (2018年) (2050年)

×

*1 内閣府HP: 令和4年版高齢社会白書 高齢化の状況 *2 経済産業省HP: R3年度「医療国際展開カントリーレポート 新興国等のヘルスケア市場環境に関する基本情報 インド編」
*3 経済産業省HP: R3年度「医療国際展開カントリーレポート 新興国等のヘルスケア市場環境に関する基本情報 マレーシア編」

※PFC-FDはセルソース株式会社の保有する商標です。



※形成外科領域、マーケティング支援事業、マーケティング支援事業・データ活用事業に関しては、引き続き事業継続をしておりますが、投資判断に影響を及ぼす事業進捗がないことから、記載を省略しております。投資判断に影響を及ぼす進展があれば、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

2022年6月の業務提携以降、動物領域での臨床研究を経て12月に初受注

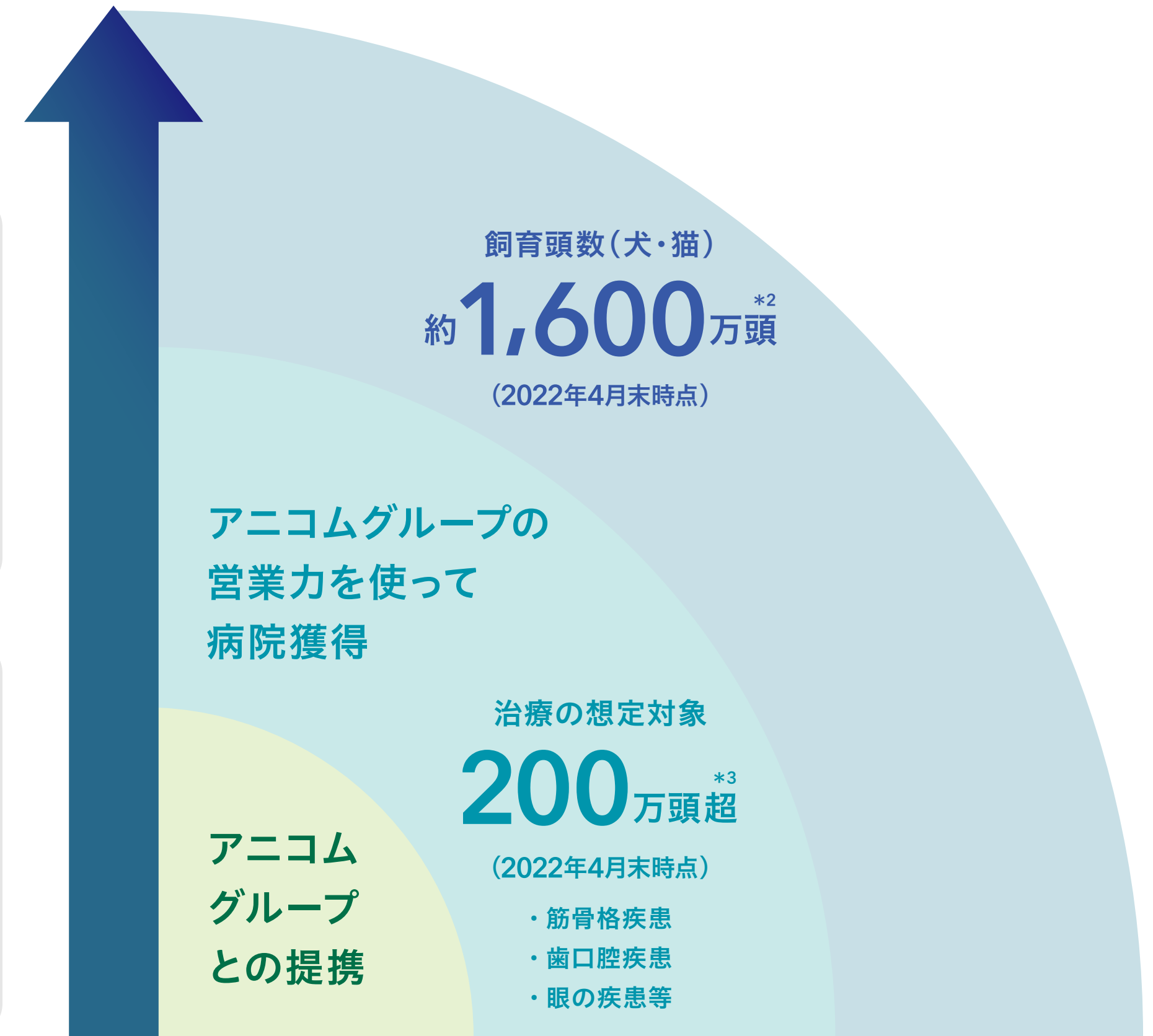


アニコム動物病院グループ
 病院数 **54**院
 (2023年9月末時点)

ペット保険
 どうぶつ保険のシェア **No.1**
 保険契約件数は **115**万件超
※アニコムホールディング調べ

動物再生医療技術研究組合
 (PARM)^{*1}
 加入病院数 **683**院
 (2023年9月末)

 **anicom medical**
アニコム先進医療研究所株式会社
先進医療の取組み



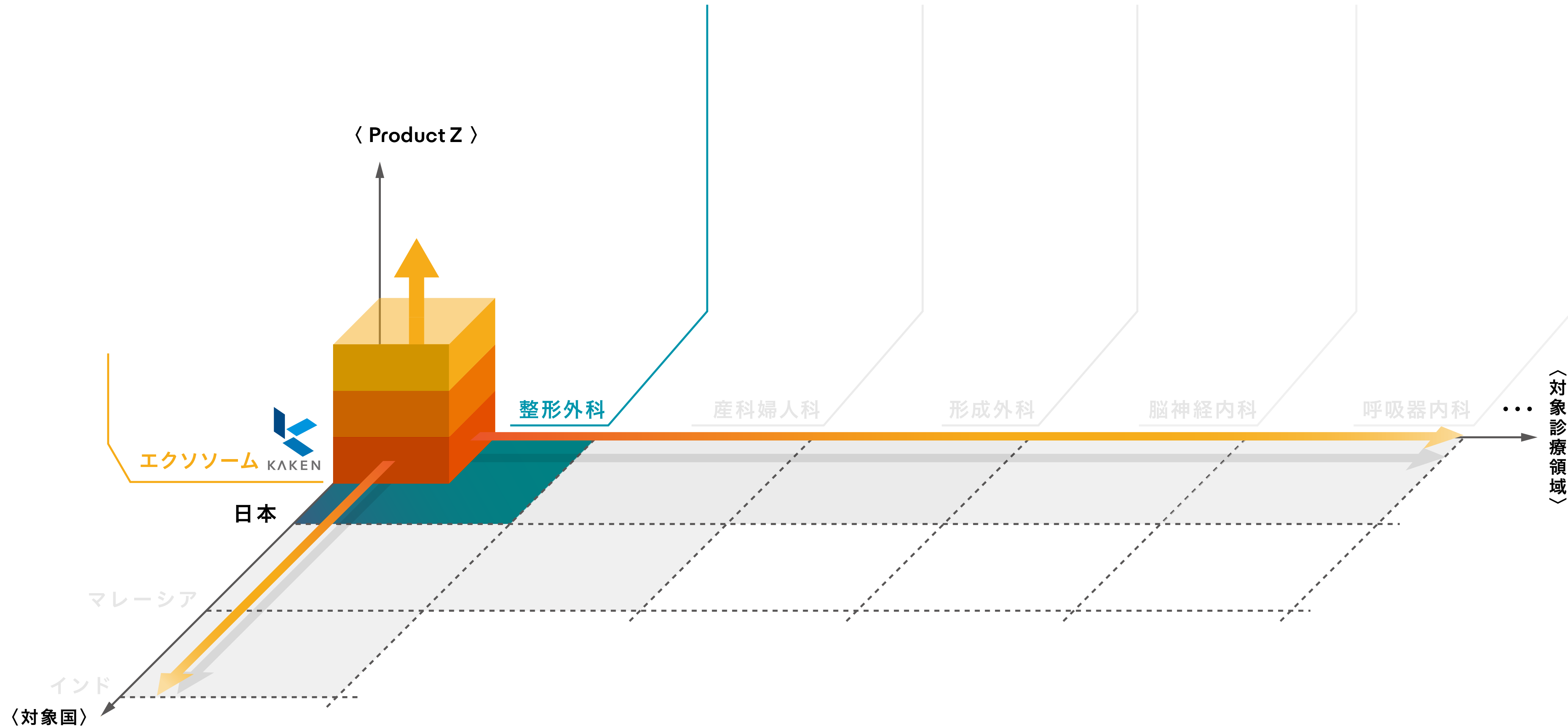
当社とアニコムグループが加盟している動物再生医療技術研究組合(PARM)を通じて
 イヌ血小板由来成長因子療法の臨床研究を開始

*1 未だ確立されていない飼育動物(イヌ・ネコ)向け細胞治療サービスについて、各プロセスを標準化し、あらゆる診療施設の獣医師が、安全かつ有効な細胞治療サービスを提供できる仕組みの実用化を目的とし、アニコムグループが中心となって立ち上げた産学官の連携を柱に共同研究を行う非営利公益法人。2019年12月10日設立。

*2 一般社団法人 ペットフード協会 2022年(令和4年)全国犬猫飼育実態調査 結果

*3 アニコムホールディング調べ

非連続的成長を実現するエクソソーム戦略



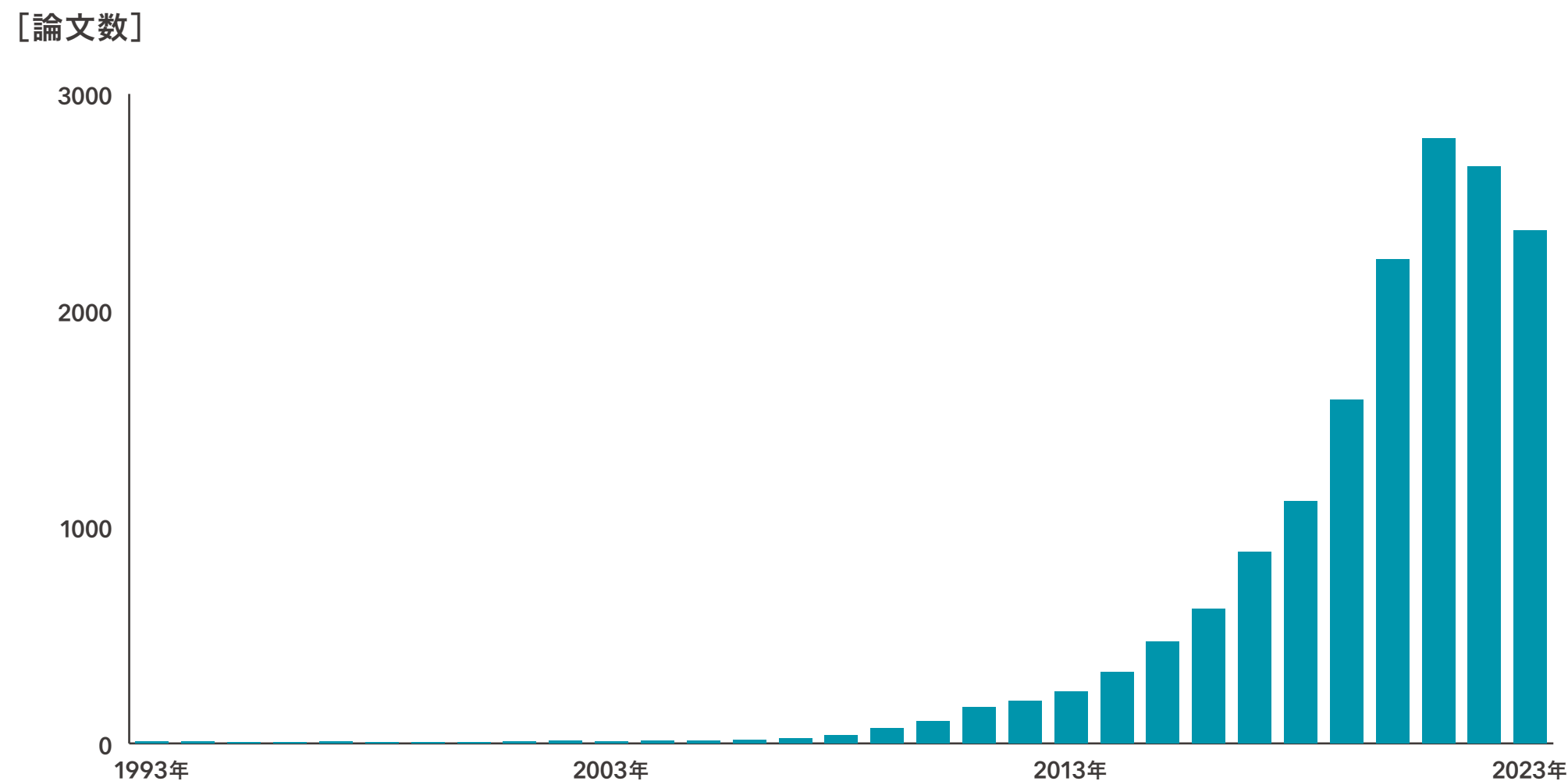
※形成外科領域、マーケティング支援事業、マーケティング支援事業・データ活用事業に関しては、引き続き事業継続をしておりますが、投資判断に影響を及ぼす事業進捗がないことから、記載を省略しております。投資判断に影響を及ぼす進展があれば、適宜、適切な方法で速やかに開示します。

エクソソームの概要

- エクソソームは、細胞から分泌される直径50-150nm(ナノメートル: 10億分の1メートル)の顆粒状の物質。
- 表面には細胞膜由来の脂質、タンパク質を含み、内部には核酸(マイクロRNA、メッセンジャーRNA、DNAなど)やタンパク質など細胞内の物質を含む。

※国立研究開発法人HP: 令和4年度「医薬品等規制調和・評価研究事業(1次公募)」の採択課題について

急増する論文数



※National Library of Medicine、PubMed『extracellular vesicle therapy』をキーワードに1993-2023年を対象にした検索結果

1 様々な疾患への治療効果が示唆

- エクソソームは、様々な疾患(新婚心筋梗塞、急性腎炎、アルツハイマー病など)に対し治療効果をもつことが示唆されており、新たな疾患治療薬として注目されている。
- 期待される効果として、抗炎症作用、組織修復作用、免疫調整作用、血管新生、細胞遊走等があげられる。

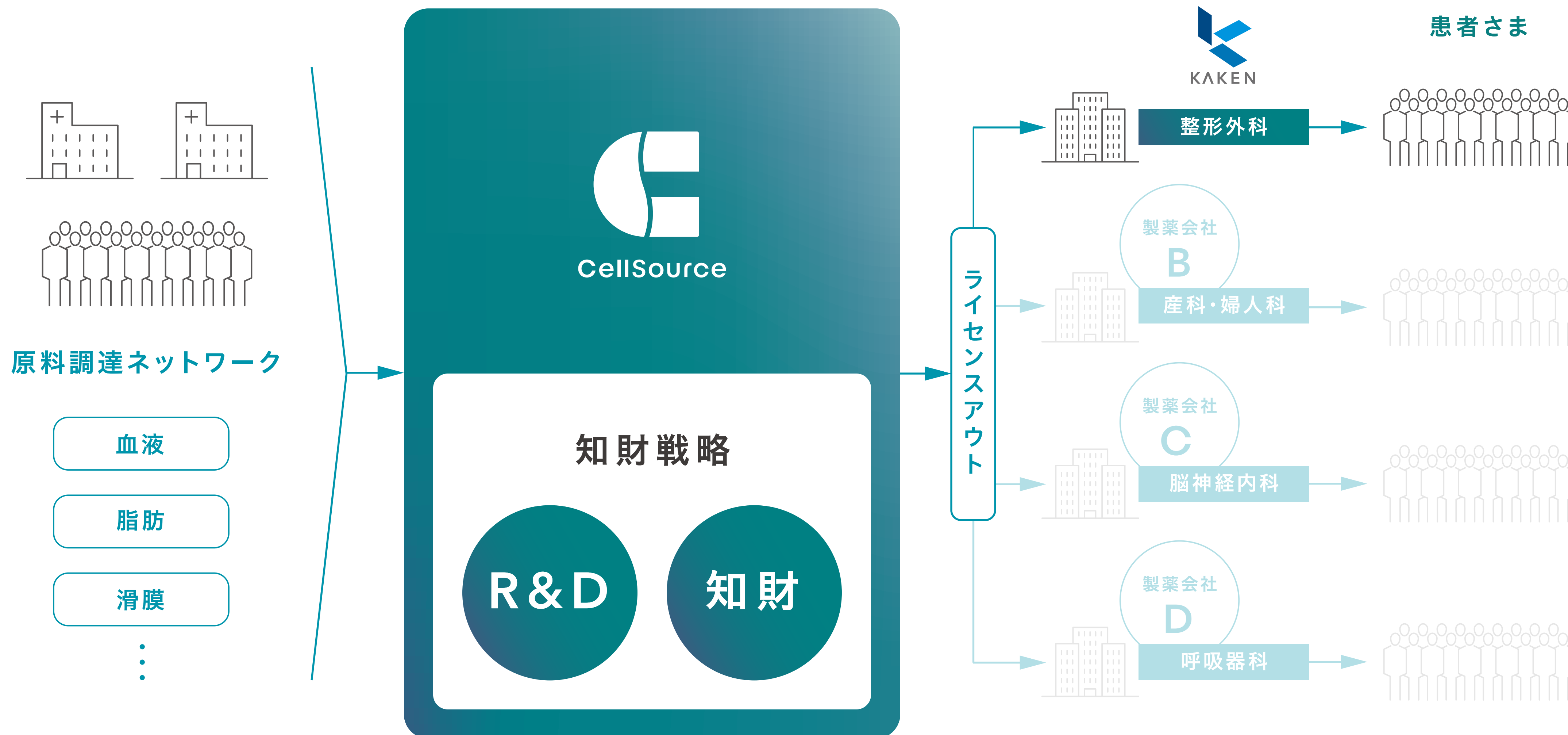
※ Katsuda T, Kosaka N, Takeshita F, Ochiya T. The therapeutic potential of mesenchymal stem cell-derived extracellular vesicles. *Proteomics*. 2013, 13, 1637-1653.

2 産業化に向け産官学で推進

- 医薬品医療機器総合機構(PMDA)の専門部会にて「エクソソームを含む細胞外小胞(EV)を利用した治療用製剤に関する報告書」*1としてまとめられ、治療製剤開発のガイドラインとして位置付けられている。
- 日本医療研究開発機構(AMED)にて「エクソソーム製剤の品質管理戦略構築に関する研究」*2として課題採択されている。

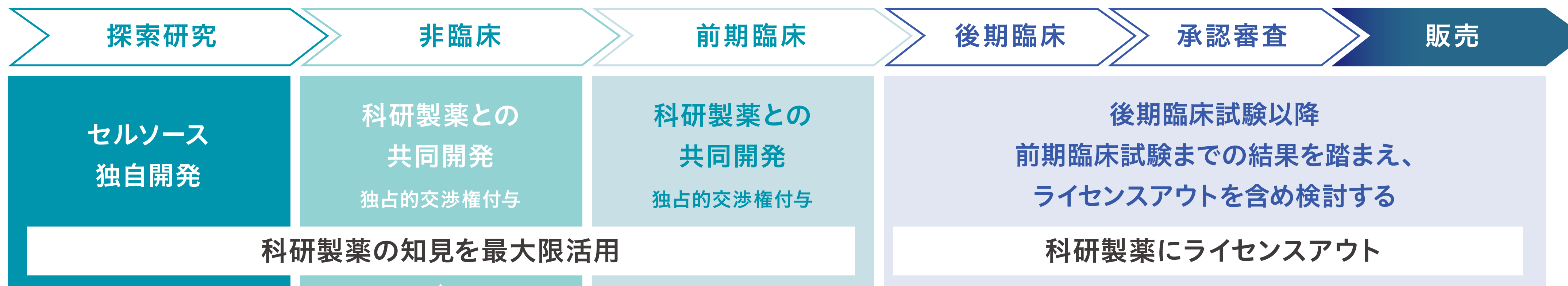
*1 PMDA『エクソソームを含む細胞外小胞(EV)を利用した治療用製剤に関する報告書(2023年1月17日)』

*2 AMED『令和4年度「医薬品等規制調和・評価研究事業(1次公募)」の採択課題について』



日本初のエクソソーム医薬品創出に向け、科研製薬とのフィージビリティスタディを実施中

2~4年以内に臨床フェーズへ



フィージビリティ・スタディ契約下で実施



現在

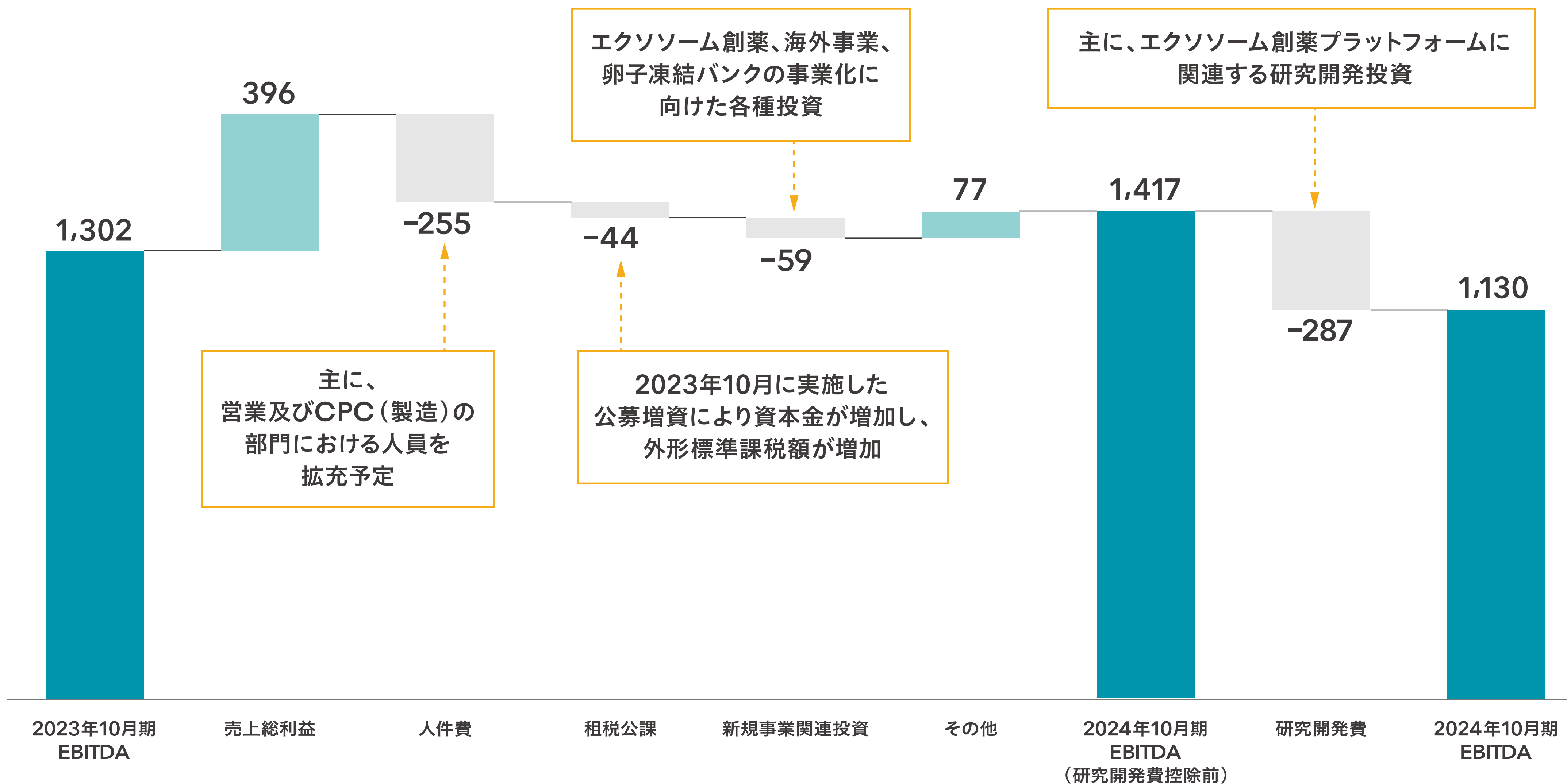
PMDA相談

- 各種試験の実施
- 必要資料の作成

治験届提出

2024年10月期 通期業績予想

[百万円]	2023年10月期 (実績)	2024年10月期 (予想)	前期比	業績予想値に関するコメント
売上高	4,510	5,368	+19.0%	<ul style="list-style-type: none"> ● 血液由来加工受託サービス及び脂肪由来幹細胞加工受託サービスの売上高は、着実な成長を見込む ● 滑膜由来幹細胞加工受託サービスが今期より本格的に収益貢献予定
売上総利益	3,185	3,580	+12.4%	
売上総利益率	70.6%	66.7%	▲3.9pt	
営業利益	1,221	1,003	▲17.8%	<ul style="list-style-type: none"> ● 非連続的成長に向けた人的資本投資、研究開発投資、新規事業開発投資等、戦略的にコストを投下し、販管費が増加
営業利益率	27.1%	18.7%	▲8.4pt	
EBITDA	1,302	1,130	▲13.2%	
EBITDAマージン	28.9%	21.1%	▲7.8pt	
EBITDA(研究開発費除く)	1,375	1,417	+3.1%	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究開発費を除いたEBITDAは微増を見込む
当期純利益	923	719	▲22.0%	<ul style="list-style-type: none"> ● 所得拡大税制等の各種優遇税制の影響は未考慮
当期純利益率	20.5%	13.4%	▲7.1pt	



Appendix

会社名 セルソース株式会社 (CellSource Co., Ltd.)
所在地 東京都渋谷区渋谷1-23-21
設立年月日 2015年11月30日
代表者 裙本 理人
決算月 10月
従業員数 151名(2023年10月31日現在)
事業内容 再生医療関連事業
加盟団体等 日本再生医療学会
 再生医療産業活性化推進事業運営共同体
 日本バイオテック協議会
 動物再生医療技術研究組合 (PARM)

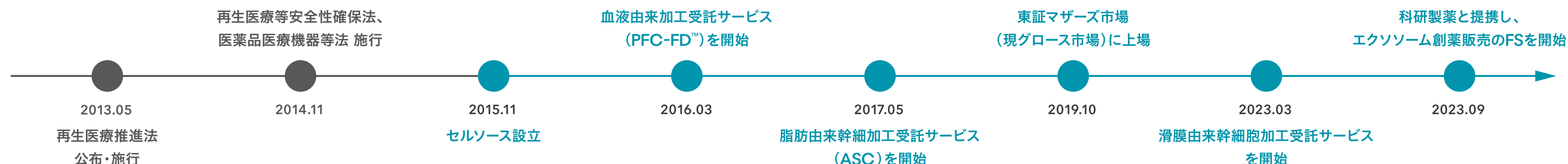


代表取締役社長CEO

裙本 理人

Masato Tsumamoto

2005年 神戸大学発達科学部 卒業
 2005年 住友商事株式会社 入社
 2007年 ロシア サンクトペテルブルグ大学 留学
 2011年 ロシア プラスタン 駐在
 2015年 セルソース株式会社 設立
 代表取締役社長CEO(現任)



※PFC-FDはセルソース株式会社の保有する商標です。



取締役
山川 雅之

1989年 鳥取大学医学部 卒業
 1993年 聖心美容外科クリニック 開設(退任)
 2007年 THE CLINIC 東京 開設(退任)
 2015年 シリアルインキュベート株式会社 設立(現代表取締役)
 セルソース株式会社 設立 代表取締役(退任)
 2016年 東京ひざ関節症クリニック 開設(退任)
 2022年 セルソース株式会社 取締役(現任)



社外取締役
村上 憲郎

1970年 京都大学工学部 卒業
 1970年 日立電子株式会社(現 株式会社日立国際電気)入社
 2003年 Google日本法人 代表取締役社長
 兼 米国本社副社長
 2009年 Google日本法人 名誉会長
 2017年 セルソース株式会社 社外取締役(現任)
 2021年 株式会社メルカリ 社外取締役(現任)



社外取締役
澤田 貴司

1981年 上智大学理工学部 卒業
 1981年 伊藤忠商事株式会社 入社
 1998年 株式会社ファーストリテイリング 取締役副社長
 2005年 株式会社リヴアップ 設立 代表取締役社長
 2016年 株式会社ファミリーマート 代表取締役社長
 2021年 株式会社ファミリーマート 代表取締役副会長
 2022年 セルソース株式会社 社外取締役(現任)
 2022年 株式会社ロッテベンチャーズ・ジャパン 代表取締役(現任)



取締役
(常勤監査等委員)
雨宮 猛

1986年 京都大学経済学部 卒業
 1986年 伊藤忠商事株式会社 入社
 1999年 日本オンライン証券株式会社 入社
 2008年 カブドットコム証券株式会社
 (現 auカブコム証券株式会社) 専務執行役 CFO
 2017年 セルソース株式会社 取締役CFO
 2023年 セルソース株式会社 取締役(常勤監査等委員)(現任)



社外取締役
(監査等委員)
藤沢 久美

1989年 大阪市立大学生活科学部 卒業
 1995年 株式会社アイフィス設立 代表取締役
 2004年 一般社団法人投資信託協会理事(現任)
 2011年 日本証券業協会公益理事(現任)
 2013年 株式会社静岡銀行 社外取締役(現任)
 2013年 株式会社ソフィアバンク代表取締役
 2014年 豊田通商株式会社 社外取締役(現任)
 2018年 公益社団法人日本プロサッカーリーグ理事(現任)
 2020年 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程修了
 2021年 セルソース株式会社 社外取締役
 2022年 株式会社国際社会経済研究所理事長(現任)
 2023年 セルソース株式会社 社外取締役(監査等委員)(現任)



社外取締役
(監査等委員)
尾崎 恒康

1994年 東京大学法学部第一類 卒業、司法研修所(48期)
 1999年 東京地方検察庁特別捜査部 検事
 2003年 法務省大臣官房訟務部門行政訟務課付
 2004年 総務省行政管理局企画調整課行政手続室 課長補佐
 2008年 西村あさひ法律事務所 パートナー弁護士
 2013年 弁護士法人西村あさひ法律事務所 福岡事務所代表(現任)
 2014年 東ソー株式会社 社外監査役(現任)
 2016年 株式会社高田工業所 ガバナンス委員会委員長
 2019年 セルソース株式会社 監査役
 2023年 セルソース株式会社 社外取締役(監査等委員)(現任)

PURPOSE

CHANGE OUR FUTURE

未来を変える

MISSION

**FREEDOM OF LIFE
WITH MEDICAL REVOLUTION**

すべての人生に自由を 医療に革命を

VALUES

1. IDEAS INTO REALITY

アイデアを現実へ

2. ISSUE DRIVEN

課題ドリブン

3. ZERO-BASED DECISION

ゼロベースで考える

4. SIMPLE AND CLEAR

シンプルで明確に

5. RESPECT AND FUN

リスペクトと楽しさを

6. BE HAPPY, MAKE HAPPINESS

幸せになり 幸せにしよう

再生医療に関する法改正を新産業創出のチャンスと捉え、創業

再生医療推進法施行

2013

研究区分

治療区分

再生医療等安全性確保法

リスクに応じた再生医療等の提供計画の提出を義務づける
従来、医療機関にて行われていた細胞加工の外部委託を可能に

再生医療市場誕生

2014

医薬品・化粧品・医療機器の製造販売

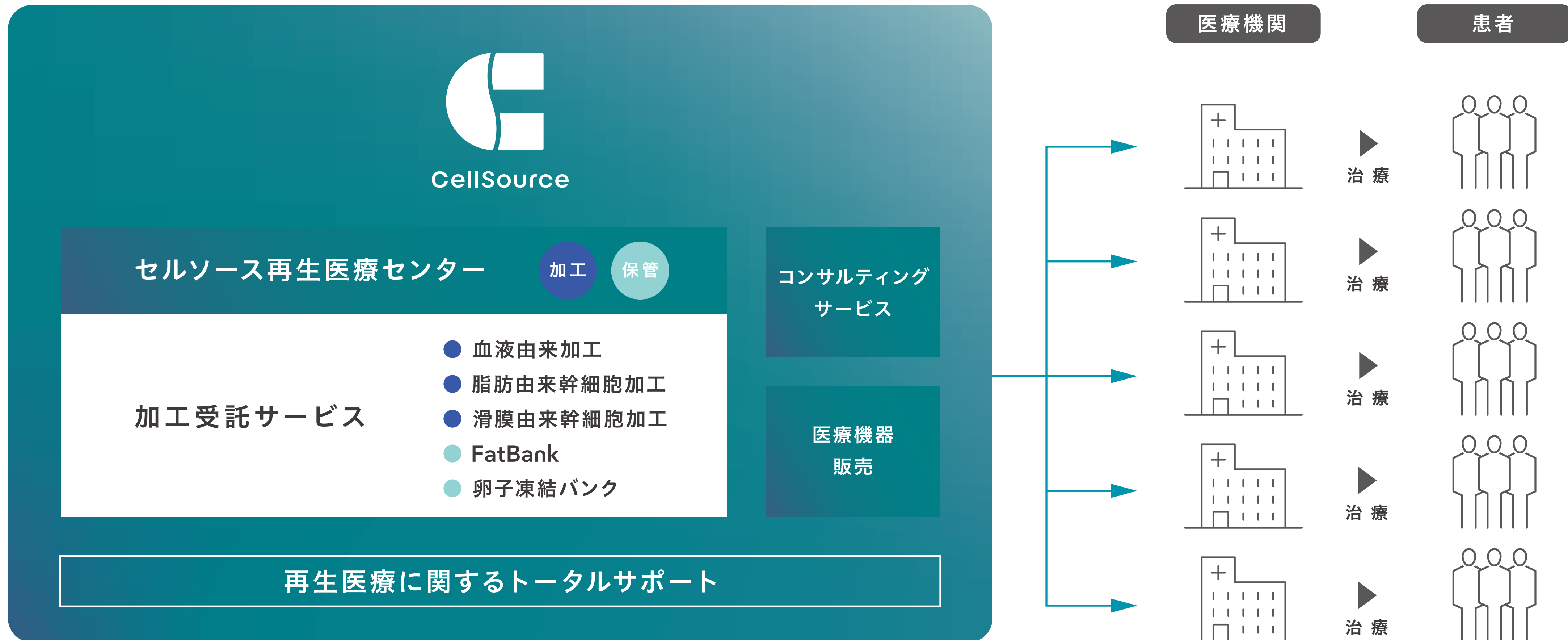
医薬品医療機器等法

従来の「薬事法」を改正し、「再生医療等製品」を新たに定義
再生医療等製品に限り、一定の条件を満たすことで、
厚生労働大臣が早期に製造販売承認を与える事が可能に

セルソース創業

2015

医療機関が再生医療等を実施するための様々なサービスをワンストップで展開



加工受託サービス

- 血液由来加工受託サービス (PFC-FD™)
- 脂肪由来幹細胞加工受託サービス (ASC)
- 滑膜由来幹細胞加工受託サービス
- FatBankサービス
- 卵子凍結保管受託サービス

コンサルティングサービス

- 再生医療等法規対応サポートサービス
- 経営管理支援サービス

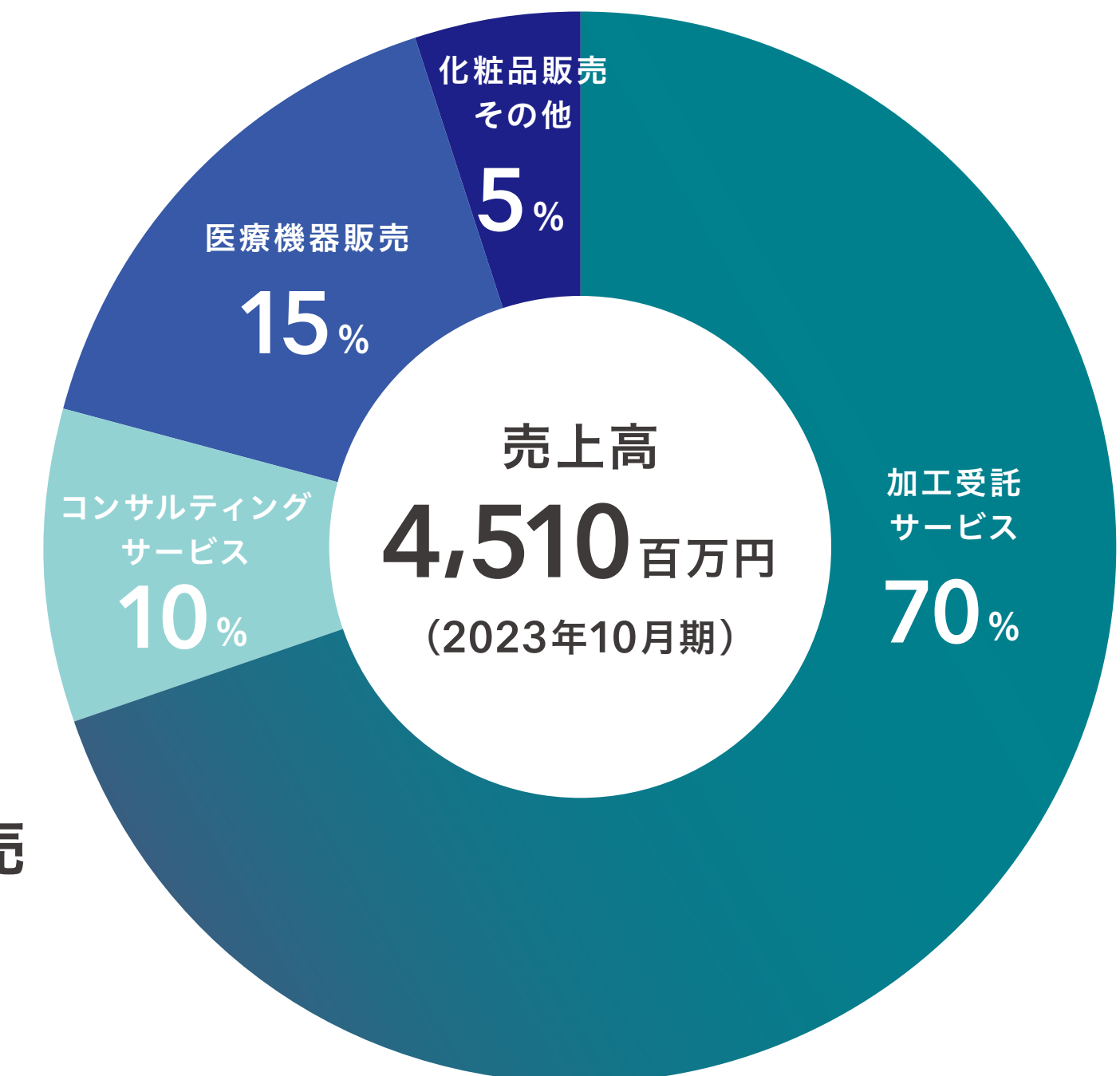
医療機器販売

- 血液及び脂肪等の組織の採取に必要な医療機器の販売

化粧品販売 その他

- 化粧品ブランド「Signalift (シグナリフト)」の販売
- 化粧品販売業者への原料提供
- 化粧品のOEM製造受託

サービス別売上高

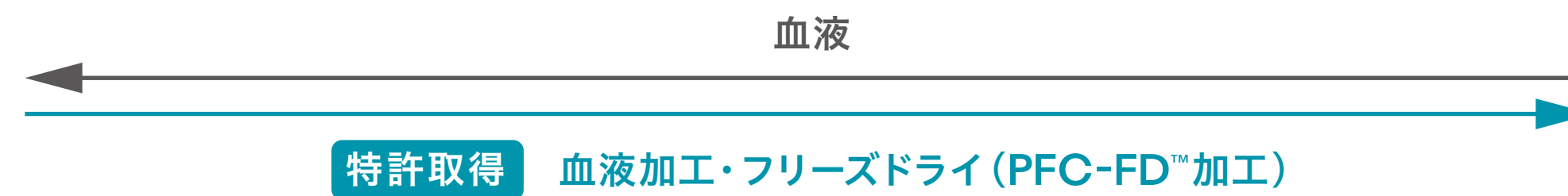


※PFC-FDはセルソース株式会社の保有する商標です。

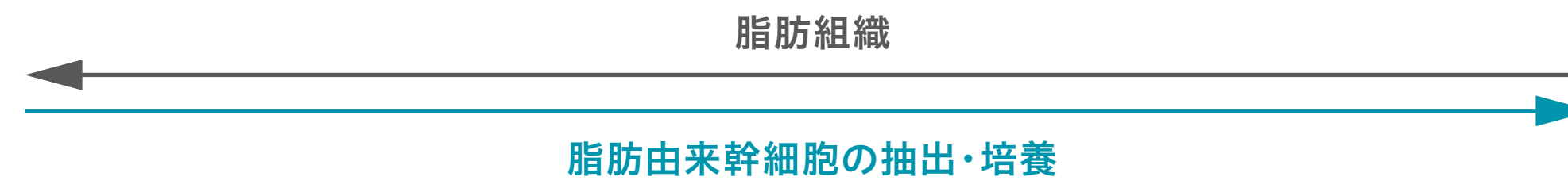
再生医療のセントラルキッチンとしての役割を果たす



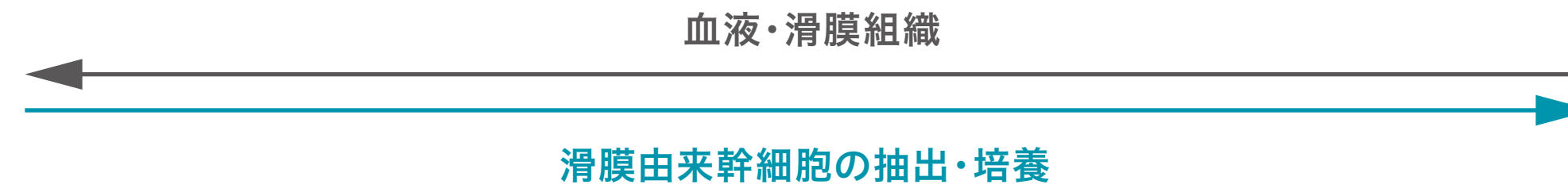
血液由来加工受託サービス (PFC-FD™)*
 フリーズドライ化により、医療機関内にて室温かつ長期間での保存が可能



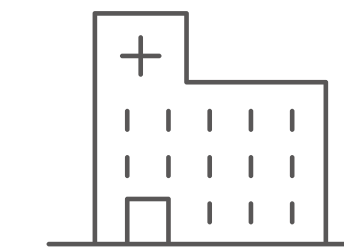
脂肪由来幹細胞加工受託サービス (ASC)
 加工に必要な脂肪組織は20mLと少量、培養後複数回に分けての投与可能



滑膜由来幹細胞加工受託サービス
 0.5gの滑膜組織から軟骨分化能の高い滑膜幹細胞を抽出・培養し、生細胞の状態での納品

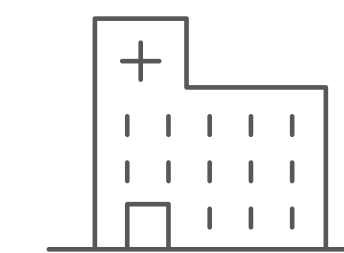
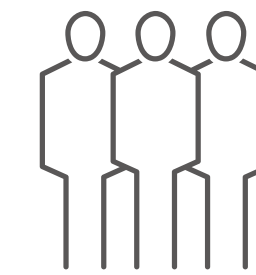


医療機関

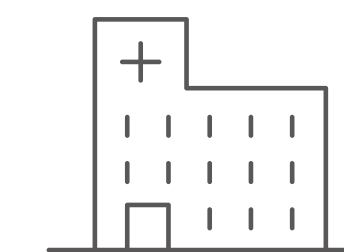
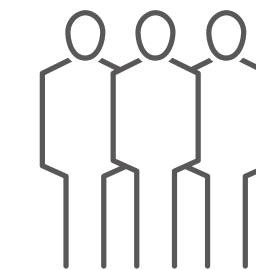


治療

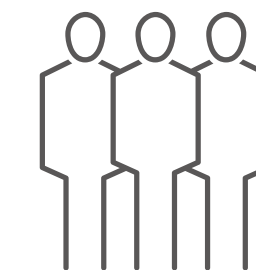
患者



治療



治療



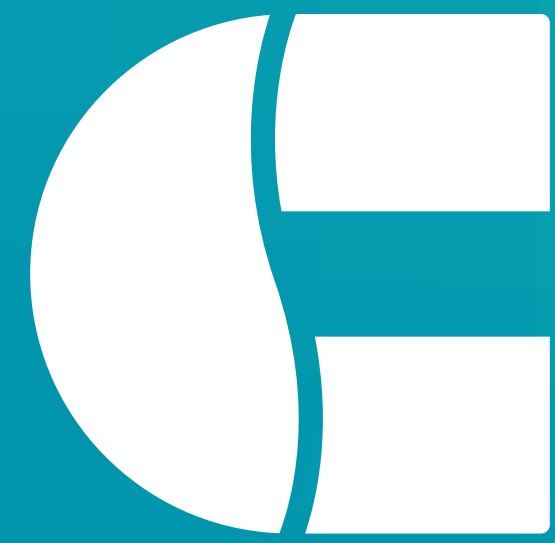
* 当社の血液由来加工受託サービスは、特許取得済みの当社独自技術により多血小板血漿 (PRP) を「PFC-FD™」化し、医療機関内にて室温かつ長期間での保存を可能にしております。

※PFC-FDはセルソース株式会社の保有する商標です。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、市場環境、法的規制、品質・安全性の確保及び製造体制、特定の取引先、風評リスク、研究開発、広告宣伝戦略、システム障害等が含まれます。



CellSource